沖縄県立芸術大学
Okinawa Prefectural University of Arts

Okinawa Prefectural University of Arts.

大学案内2025

Contents

01 学長あいさつ
02 建学の理念／沿革
03 大学の教育研究上の目的／3つのポリシー
04 大学組織／在学生数
05 教員名簿／教職員数
06 教育組織・教育分野・研究領域／学年暦

08 美術工芸学部
10 絵画専攻（油画分野・日本画分野）
12 彫刻専攻
14 芸術学専攻
16 デザイン専攻
18 工芸専攻（染分野・織分野・陶芸分野・漆芸分野）
22 卒業・修了作品展／卒業・修士論文発表会
23 美術工芸学部の地域貢献

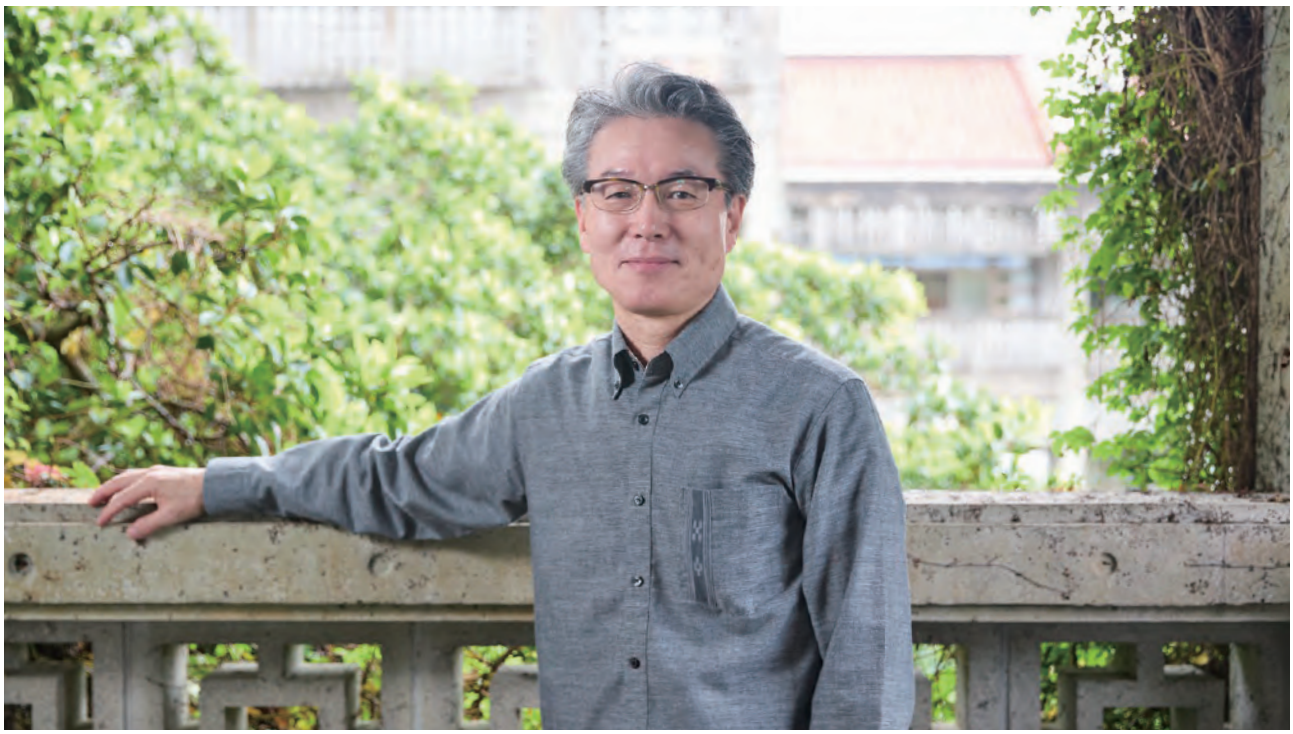
24 音楽学部
26 音楽表現専攻（声楽コース・ピアノコース・弦楽コース・管打楽コース・作曲理論コース）
32 音楽文化専攻（沖縄文化コース・音楽学コース）
34 琉球芸能専攻（琉球古典音楽コース・琉球舞踊組踊コース）
36 奏楽堂／定期公演
37 音楽学部の地域貢献

38 全学教育センター
38 全学教育科目・おきげい教養講座・資格課程

40 大学院
40 造形芸術研究科　修士課程
42 音楽芸術研究科　修士課程
44 芸術文化学研究科　博士課程

45 芸術文化研究所
46 附属図書・芸術資料館
47 施設紹介
48 国際交流
50 卒業後の進路／主な就職先
52 活躍する卒業生
53 学費・奨学金
54 学生生活サポート
55 沖芸祭／オープンキャンパス
56 入試案内
57 アクセスマップ

表紙デザイン　赤塚 美穂子 講師



学長あいさつ

Message from the President

沖縄県立芸術大学は、かつて海洋国家として栄えた琉球國の由緒ある地、首里に1986年に開学して以来、今年で40年目を迎えます。本学の建学の精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあります。これに基づき、伝統芸術の継承と発展はもとより、新たな芸術創造の可能性を広げ、地域ひいては世界の芸術文化の向上発展に寄与できる人材の育成を教育の理念に掲げています。

自由な精神を礎とした創造行為は優れて人間らしい営為であり、先史の洞窟画や縄文の造形が物語るように、それは原始太古より人類の生活と共にありました。そして今日の高度情報社会からAIやロボットの活用が進む超スマート社会に向けて、今後、人間の強みを発揮しなくてはならない機会が増え、いっそう人には豊かな感性や自然観、変化に対する好奇心や柔軟な発想力が求められます。また、DX、ポストコロナという大きな時代の転換期にある今、芸術など人間の創造力によって生み出され発展してきた分野には、今まで以上に社会的役割が期待されると同時に、それに携わる者には責任ある場面も増してくることでしょう。

本学は、そのような次代を担う豊かな人間性と社会性、国際的視野を備えた芸術分野の専門家として、幅広く社会で活躍できる人材の育成を念頭に、個性の伸長を期して少人数教育による学生本位の教育を行ってまいります。その中で、芸術を志す人に求められる多様な価値観への理解と、多角的な視点の獲得を共に目指します。

これから社会のデジタルシフトは不可逆的に加速し、世界の平準化は進むばかりです。だからこそ、自らの拠って立つ文化を認識し、芸術の多様性、独創性の源泉である先入観に囚われない批評的精神を、生涯を通して更新し続けたいものです。

世界的な遺跡が散在するこの美しい南の島には、大交易時代から現代に至るまで異文化を受容し個性ある優れた文化芸術を創造してきた歴史と、都市部にあっても大自然の変化を間近に感じることができる得がたい環境があります。この沖縄の歴史と環境は自ずと、芸術と共に人生を歩んで行くのに必要な柔軟で強かな精神を育んでくれるに違いありません。

沖縄県立芸術大学長

波多野　泉

建学の理念

日本文化の中における沖縄の地域文化の特性と伝統は、極めて特徴的であり、文化伝統の源流を探り、文化生成の普遍性を究めるために不可欠の内容を持つものである。わけても沖縄固有の風土によって培われた個性的な芸術文化の継承と創造の問題は、日本文化としてはもちろんのこと、沖縄県にとっても重要な課題であるといわざるを得ない。そして、それらを担う人材の育成もまた長い未来への架橋として緊要なことである。

県立芸術大学を建学する基本的な精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあるが、そのためには、地域文化の個性を明らかにし、その中に占める美術・工芸・音楽・芸能等さまざまな伝統芸術の問題に積極的かつ具体的に取り組み、その特性を生かすことでなければならない。このことは、日本文化の内容をより豊かにするとともに、ひいては、国際的な芸術的文化活動にも寄与するものと信ずる。

我が国の最南に位置する県立芸術大学は、東アジア、東南アジアを軸とした太平洋文化圏の中心として、それらの地域における多様な芸術文化の実態と、地域文化伝統の個性とのかかわりを明らかにし、その広がりを追究し、汎アジア的芸術文化に特色をおいたユニークな研究教育機関にしたい。

沿革

昭和61年　3月 31日	一般教育棟・管理棟竣工
昭和61年　4月　1日	沖縄県立芸術大学開学　初代学長　山本正男　就任
昭和62年　11月　4日	沖縄県立芸術大学芸術振興財団設立許可
昭和63年　3月 17日	美術棟竣工
昭和63年　10月　7日	登り窯竣工（工芸専攻）
平成元年　3月 26日	体育館竣工
平成2年　3月 26日	第１回卒業式
平成2年　4月　1日	音楽学部設置
平成2年　5月　8日	音楽棟竣工
平成2年　5月 15日	開学５周年・音楽学部開設記念式典開催
平成5年　4月　1日	大学院修士課程造形芸術研究科設置
平成6年　4月　1日	大学院修士課程音楽芸術研究科設置
平成6年　7月 31日	附属図書・芸術資料館竣工
平成7年　3月 31日	奏楽堂竣工
平成7年　4月　1日	美術工芸学部美術学科芸術学専攻開設
平成8年　4月　1日	大学院後期博士課程芸術文化学研究科設置
平成8年　5月 15日	開学10周年記念式典開催
平成8年　10月 15日	第二代学長　阿部公正　就任
平成9年　3月 31日	福利厚生棟竣工
平成10年　3月 31日	附属研究所棟竣工
平成14年　10月 15日	第三代学長　大嶺實清　就任
平成15年　7月 10日	第四代学長　朝岡康二　就任
平成16年　4月　1日	音楽学部音楽学科邦楽専攻を琉球芸能専攻に改称
平成16年　4月　1日	音楽芸術研究科舞台芸術専攻邦楽専修を琉球古典音楽専修に、楽劇専修を琉球舞踊組踊専修に改称
平成18年　7月 18日	第五代学長　宮城篤正　就任
平成18年　10月　1日～10月31日	開学20周年記念事業「平和祈念公園芸術祭」開催
平成22年　7月 18日	第六代学長　佐久本嗣男　就任
平成23年　11月 17日～11月27日	開学25周年記念事業「沖縄・タイ国際交流美術展」開催
平成23年　3月 31日	デザイン・中央棟、工芸棟、彫刻棟竣工
平成23年　10月　1日	首里崎山キャンパス開設式
平成24年　4月　1日	デザイン工芸学科工芸専攻に漆芸分野開設
平成24年　4月　1日	大学院後期博士課程芸術文化学研究科に芸術表現（実技系）領域を開設
平成26年　7月 18日	第七代学長　比嘉康春　就任
平成28年　4月　1日	音楽学部を音楽表現、音楽文化、琉球芸能の３専攻に再編 音楽文化専攻に沖縄文化コースを開設
平成28年　9月 22日	開学30周年記念式典開催
令和2年　4月　1日	第八代学長　波多野泉　就任
令和3年　4月　1日	公立大学法人沖縄県立芸術大学　設立

大学の教育研究上の目的

沖縄県立芸術大学は、広く教養を培い、深く専門芸術の技術、理論及び歴史を教授研究して、人間性と芸術的創造力及び応用力を育成し、もって伝統芸術文化と世界の芸術文化の向上発展に寄与することを目的とする。（学則第１条）

沖縄県立芸術大学大学院は、建学の理念に則り、高度な芸術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて芸術文化の創造及び発展に寄与することを目的とする。（大学院学則第１条）

大学の3つのポリシー

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学では、大学及び各学部の教育理念に沿った専門教育と教養教育において成果をあげ、最終学年における卒業作品又は卒業論文の提出あるいは卒業演奏を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。その際、学生が獲得しておくべき学修成果は以下のとおりです。

1　美術工芸又は音楽の分野における基本的な知識を体系的に理解し、その知識体系の意味と自己の存在を歴史や文化、社会と関連付けて理解している。
2　知的活動や職業生活、社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、問題解決力などの汎用的基礎能力を身につけている。
3　卒業後も社会的責任を認識し、生涯を通じて自律的に学び続ける能力を身につけている。
4　１から３までの知識や能力等を総合的に活用し、創造的な思考力をもって自らの課題を探求し、解決する能力を身につけている。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

沖縄県立芸術大学のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、４年間を通して全学教育科目を選択履修し、全学年にわたり専門分野の実技や理論を基礎から高度な内容まで、段階的に履修することを基本に授業科目を編成します。
その上で、さまざまな技術や学問を幅広く主体的に学べるよう配慮し、学生の多様な個性を尊重しつつ、自ら感性を磨き、社会との関係を考え発信していく能力を高める教育を行います。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

1　教育の理念

沖縄県立芸術大学の建学の基本的な精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあります。これに基づき、伝統芸術の継承と発展にとどまらず、新たな芸術創造の可能性を広げ、幅広く芸術分野で活躍できる人材を育成していきます。さらに、学生の専門的力量を高め、豊かな人間性と社会性を身につける教育を目指します。

2　本学の求める人物像

・本学の教育の理念をよく理解し、学習に必要な基礎的知識・技能を備えている人
・芸術に強い関心があり、自ら課題を発見し解決するための思考力や判断力、表現力を備えている人
・多様な芸術文化に興味を持ち、主体的に人々と協働し、現代社会に向けて新しい芸術創造の営みを発信していく意欲に満ちた人

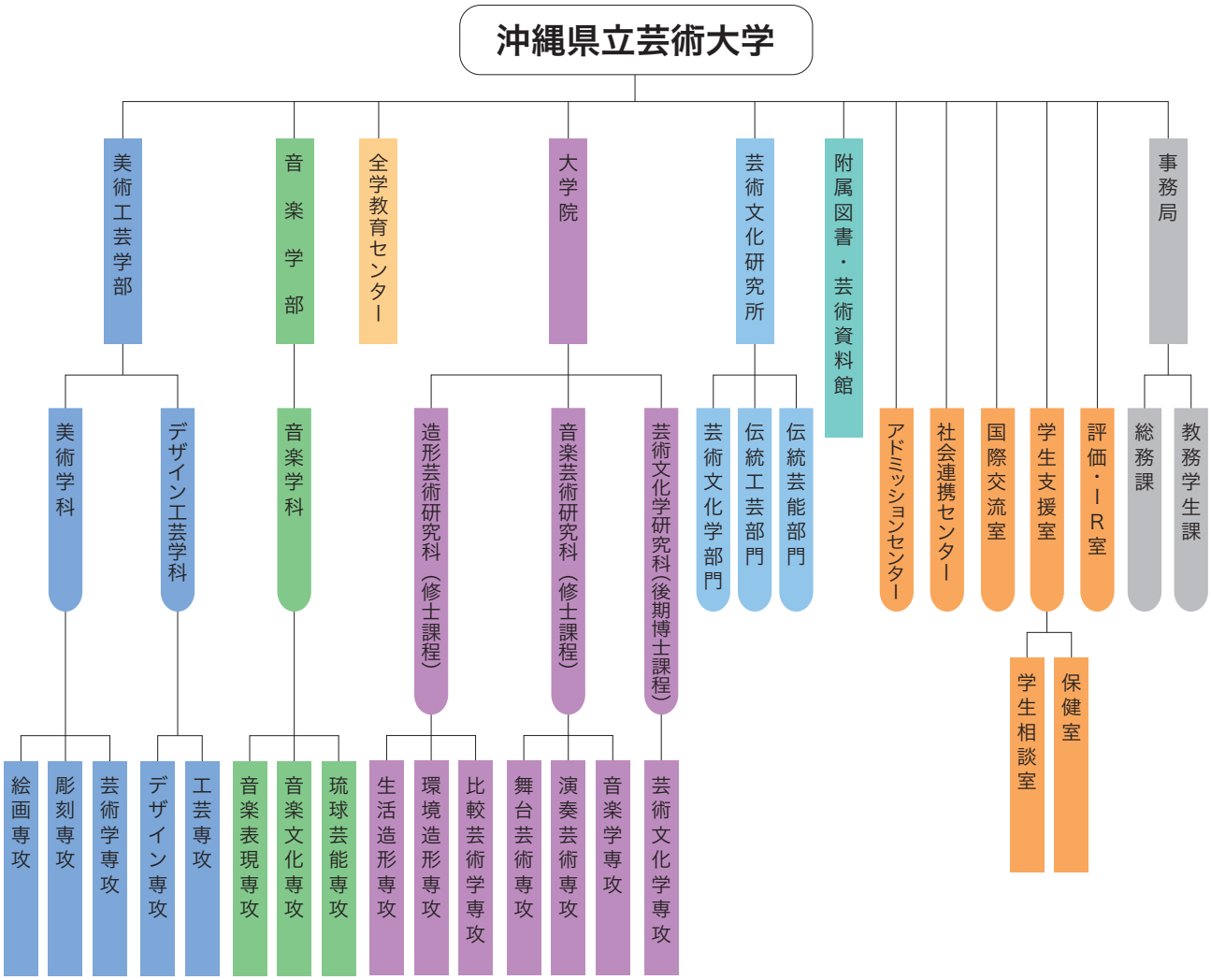
3　入学者選抜区分

・本学では一般選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜及び社会人選抜を実施します。

4　入学者選抜試験の基本方針と実施

・一般選抜においては、大学及び各学部のアドミッション・ポリシーに基づき、大学入学共通テストの成績を利用した選抜試験と個別学力検査等（実技検査、小論文、口述試験、面接等）を実施します。なお、大学入学共通テストについて、国語、外国語及びその他任意の１科目の合計３科目を試験科目として課します。
・学校推薦型選抜においては、実技検査、小論文、面接等を実施します。
・総合型選抜においては、実技検査、小論文、プレゼンテーション、面接等を実施します。
・音楽学部の社会人選抜においては、個別学力検査等（専攻試験、小論文等）を実施します。
いずれの試験においても、本学での学習に必要な「学力の３要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等）」を測り評価します。

大学組織



在学生数

令和6年5月1日　現在

学部	学科	専攻	入学定員	総定員数	1年次 小計	1年次 県内	1年次 県外	2年次 小計	2年次 県内	2年次 県外	3年次 小計	3年次 県内	3年次 県外	4年次 小計	4年次 県内	4年次 県外	合計 小計	合計 県内	合計 県外
美術工芸	美術	絵画	10	40	21	11	10	11	7	4	11	5	6	19	11	8	62	34	28
		彫刻	5	20	9	3	6	5	1	4	7	1	6	2	0	2	23	5	18
		芸術学	6	24	6	4	2	7	4	3	6	2	4	5	2	3	24	12	12
	デザイン工芸	デザイン	20	80	24	18	6	25	20	5	21	14	7	19	13	6	89	65	24
		工芸	24	96	26	15	11	28	13	15	24	10	14	27	11	16	105	49	56
小計			65	260	86	51	35	76	45	31	69	32	37	72	37	35	303	165	138
音楽	音楽	音楽表現	23	92	22	9	13	25	16	9	26	14	12	25	16	9	98	55	43
		音楽文化	7	28	6	4	2	2	0	2	7	3	4	5	3	2	20	10	10
		琉球芸能	10	40	8	8	0	9	9	0	11	9	2	14	10	4	42	36	6
小計			40	160	36	21	15	36	25	11	44	26	18	44	29	15	160	101	59
合計			105	420	122	72	50	112	70	42	113	58	55	116	66	50	463	266	197

研究科	入学定員	総定員数	1年次 小計	1年次 本学	1年次 他学	2年次 小計	2年次 本学	2年次 他学	3年次 小計	3年次 本学	3年次 他学	合計 小計	合計 本学	合計 他学
造形芸術(修士)	18	36	23	13	10	22	15	7	-	-	-	45	28	17
音楽芸術(修士)	15	30	16	16	0	18	13	5	-	-	-	34	29	5
芸術文化学(博士)	3	9	3	2	1	4	1	3	8	4	4	15	7	8
合計	36	75	42	31	11	44	29	15	8	4	4	94	64	30

※平成28年度音楽学科再編により音楽表現専攻及び音楽文化専攻を設置

総合計	557

教員名簿

令和7年4月1日現在

美術工芸学部／（院）造形芸術研究科

絵画専攻	（院）造形芸術研究科	教　授	知花　　均	油画・凹版
		教　授	香川　　亮	日本画・凸版
		教　授	髙﨑　賀朗	油画・孔版
		准教授	阪田　清子	油画・インスタレーション
		准教授	喜多　祥泰	日本画
		准教授	関谷　　理	日本画
		助　教	平良　優季	日本画
彫刻専攻		教　授	砂川　泰彦	石彫　他
		教　授	松本　　隆	テラコッタ・鋳造　他
		准教授	河原　圭佑	金属　他
		准教授	長尾　恵那	木彫　他
		助　教	吉田　香世	金属　他
芸術学専攻		教　授	小林　純子	日本美術史
		教　授	下野　玲子	東洋美術史
		教　授	喜屋武盛也	美　学
		教　授	土屋　誠一	芸術学
		教　授	波平　八郎*	日本文学、文化学
		教　授	森　　達也*	工芸史、考古学
		准教授	鈴木　耕太*	琉球文学・文化学
		講　師	太田　泉	西洋美術史
			フロランス	*（院）比較芸術学専攻のみ
デザイン専攻		教　授	赤嶺　　雅	グラフィックデザイン
		教　授	仲本　　賢	映像デザイン
		教　授	宮里　武志	環境デザイン
		准教授	笹原　浩造	グラフィックデザイン
		准教授	又吉　　浩	メディアデザイン
		准教授	高田　浩樹	プロダクトデザイン
		講　師	赤塚美穂子	プロダクトデザイン
		助　教	高野　　大	映像デザイン
工芸専攻		教　授	名護　朝和	染
		教　授	山田　　聡	陶
		教　授	花城美弥子	織
		教　授	當眞　　茂	漆
		准教授	久保田寛子	織
		准教授	宇良　京子	染
		准教授	島袋　克史	陶
		講　師	松崎　森平	漆
		助　教	坂本　大地	染
		助　手	泉　　佳那	染
		助　手	島袋　香子	漆

音楽学部／（院）音楽芸術研究科

音楽表現専攻	（院）演奏芸術専攻	教　授	山下　牧子	メゾ・ソプラノ
		教　授	小杉　裕一	ピアノ
		教　授	岡田　光樹	ヴァイオリン
		教　授	林　　裕	チェロ
		教　授	阿部　雅人	ホルン
		教　授	澤村　康恵	クラリネット
		教　授	塚本　一実◎	作　曲
		教　授	倉橋　　健	トランペット
		教　授	小沢麻由子	ピアノ
		准教授	山内　昌也	テノール
		准教授	松田奈緒美	ソプラノ
		准教授	大城　英明	ピアノ
		准教授	屋比久理夏	打楽器
		准教授	土井智恵子◎	作　曲
		講　師	江戸聖一郎	フルート
		助　手	藤村　瑛亮	ピアノ
		助　手	小野　瑞姫	ホルン
			◎（院）音楽学専攻教員	
音楽文化専攻	（院）音楽学専攻	教　授	谷本　　裕△	アートマネジメント
		教　授	小西　潤子	民族音楽学
		教　授	高瀬　澄子	日本音楽史
		准教授	呉屋　淳子	文化人類学
		准教授	遠藤　美奈	民族音楽学
		准教授	倉橋　玲子	西洋音楽史
		准教授	向井　大策	西洋音楽史
		講　師	神谷　武史△	アートマネジメント
		教　授	久万田　晋*	民族音楽学
			△音楽文化専攻のみ *（院）音楽学専攻のみ	
琉球芸能専攻	（院）舞台芸術専攻	教　授	仲嶺　伸吾	琉球古典音楽
		教　授	山内　昌也	琉球古典音楽
		教　授	比嘉いずみ	琉球舞踊
		准教授	新垣　俊道	琉球古典音楽
		准教授	阿嘉　　修	組　踊
		准教授	嘉数　道彦	琉球舞踊・組踊
		助　手	豊里　美保	琉球古典音楽

全学教育センター

教　授	波平　八郎○	文学概論
教　授	森　　達也○	博物館学
教　授	髙良　則子	英　語
教　授	芳澤　拓也	教育原理
教　授	張本　文昭	健康・運動理論実技
教　授	藤田　喜久	自然科学
准教授	城間　祥子	教育心理学
准教授	山田　浩世	歴史学／琉球史
	○造形芸術研究科兼任教員	

芸術文化研究所

教　授	久万田　晋□	民族音楽学・民族芸能論
准教授	鈴木　耕太○	琉球文学・文化学
准教授	新田　摂子	染織工芸史
教　授	森　　達也*	工芸史、考古学
教　授	山田　　聡*	陶
教　授	名護　朝和*	染
教　授	高瀬　澄子*	日本音楽史
教　授	比嘉いずみ*	琉球舞踊
	○造形芸術研究科兼任教員 □芸術文化学研究科兼任教員 *兼任教員	

芸術文化学研究科

教　授	喜屋武盛也*	美　学
教　授	土屋　誠一	近・現代美術史、写真論
教　授	小林　純子*	日本美術史
教　授	波平　八郎*	日本文学、文化学
教　授	森　　達也*	工芸史、考古学
准教授	鈴木　耕太	琉球文学・文化学
教　授	高瀬　澄子*	日本音楽史
准教授	向井　大策	西洋音楽史
教　授	小西　潤子*	民族音楽学
准教授	遠藤　美奈	民族音楽学
教　授	久万田　晋*	民族音楽学
准教授	呉屋　淳子	文化人類学、民俗芸能研究
教　授	山田　　聡*	陶磁器・立体造形
教　授	砂川　泰彦*	彫　刻
教　授	名護　朝和	染
教　授	花城美弥子	織
教　授	當眞　　茂	漆
准教授	喜多　祥泰	日本画
准教授	関谷　　理	日本画
教　授	仲本　　賢	視覚伝達デザイン
准教授	高田　浩樹	視覚伝達デザイン
教　授	阿部　雅人*	ホルン
教　授	仲嶺　伸吾*	歌三線：安富祖流
教　授	塚本　一実	作曲
	*研究指導教員	

教職員数

令和7年4月1日現在単位（人）

	学長	教授	准教授	講師	助教	助手	事務職員
現　員	1	38	27	5	4	5	25
小　計						80	25
総合計							105

専攻別教員数

学部等	学科等	専攻	計
美術工芸学部	美　術	絵画	7
		彫刻	5
		芸術学	5
	デザイン工芸	デザイン	8
		工芸	11
	小　計		36
音楽学部	音　楽	音楽表現	17
		音楽文化	8
		琉球芸能	7
	小　計		32
全学教育センター			8
芸術文化研究所（専任）			3
合　計			79

男女別教員数

部局｜職位	教授		准教授		講師		助教		助手		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
美術工芸学部	13	3	7	4	1	2	2	2	0	2	23	13
音楽学部	9	6	6	6	2	0	0	0	1	2	18	14
全学教育センター	5	1	1	1	0	0	0	0	0	0	6	2
芸術文化研究所	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	1
計	28	10	15	12	3	2	1	3	1	4	49	30

教育組織・教育分野・研究領域

美術工芸学部								
美術学科				デザイン工芸学科				
絵画専攻　定員10名		彫刻専攻　定員5名	芸術学専攻　定員6名	デザイン専攻　定員20名	工芸専攻　定員24名			
油画	日本画	塑造	美学	生活デザイン	工芸 二年生後期に各分野に分かれます。			
油画 平面 版画 映像･写真表現 空間表現	平面 模写 絹本	木彫 石彫 金属 テラコッタ ミクストメディア	芸術学 日本美術史 東洋美術史 西洋美術史	産業デザイン 環境デザイン グラフィックデザイン 映像デザイン エディトリアルデザイン	染	織	陶芸	漆芸
					紅型(筒･型)、型染、夾纈、捺染	絣織、浮織、綴織、組織、素材	成形、陶土、磁土、焼成薪窯、ガス窯、電気窯	漆精製、素地、髹漆、加飾、乾漆
専門教育科目（必修・選択）								
全学教育科目（リテラシー科目〈日本語、情報、外国語〉、一般教養科目〈人文科学、社会科学、自然科学〉、								

造形芸術研究科											
環境造形専攻　定員6名			生活造形専攻　定員9名						比較芸術学専攻　定員3名		
絵画専修		彫刻専修	デザイン専修		工芸専修				比較芸術学専修		
油画 研究室	日本画 研究室	彫刻 研究室	視覚伝達 デザイン 研究室	生活環境 デザイン 研究室	染 研究室	織 研究室	陶磁器 研究室	漆工 研究室	美学･芸術学 研究室	美術史 研究室	民族芸術 文化学研究室
油画 平面表現 映像･写真表現 版表現 空間表現	日本画	塑造 木彫 石彫 金属 テラコッタ ミクストメディア	視覚伝達 デザイン	生活環境 デザイン	染 （型染 紅型）	織 （織研究 織制作）	陶磁器 （陶磁原料研究 陶磁器研究）	漆工 （日本漆芸 琉球漆芸）	比較芸術学 比較美学 日本･東洋･西洋の美学･芸術学	日本･東洋･西洋の 美術史学	琉球文学 民族文化学 日本文学 比較文化学 アジア工芸史
関連科目											

芸術文化学研究科	
比較芸術学研究領域	民族音楽学
比較美学・芸術学　芸術批評史　民族芸術文化学	音楽史　民族音楽学

芸術文化研究所	
伝統芸能部門	伝統工芸部門

学年暦

4月

1日　学年開始及び前学期開始
2日　入学式
1日～7日　新入生オリエンテーション(学部･大学院)
1日～11日　前学期授業科目の登録期間
8日　前学期授業開始

5月

7日～8日　定期健康診断
15日　開学記念日(休業)

6月

8日　オープンキャンパス(美術工芸学部･音楽学部)
14日　ぬちぬぐすーじさびらin摩文仁
第10回レクイエムコンサート(沖縄平和祈念堂)
23日　慰霊の日(休業)
26日　五芸祭(沖縄大会)準備日
27日～29日　五芸祭(沖縄大会)

7月

5日　芸術文化学研究科(博士課程)
研究発表会(2年次生以上)
19日　卒業論文、修士論文中間研究発表会
[芸術学、比較芸術学専攻]
25日～31日　前学期期末試験
27日　オープンキャンパス(音楽学部)

8月

1日～9/10　夏季休業
1日～5日　彫刻専攻3･4年生･専修1･2年生展
1日～7日　サマースクール(美術工芸学部)
3日　オープンキャンパス(美術工芸学)

9月

1日～22日　中学校教育実習
(中学校及び高等学校教育職員免許状取得予定者)
6日～7日　大学院造形芸術研究科入試(9月試験)
8日～22日　高等学校教育実習
(高等学校教育職員免許状取得予定者)
8日～25日　前学期集中講義、自由研究及び補講期間
19日～29日　後学期授業科目の登録期間
27日～28日　総合型選抜(美術工芸学部･音楽学部)
30日　前学期終了

音楽学部								
音楽学科								
音楽表現専攻　定員23名					音楽文化専攻　定員7名		琉球芸能専攻　定員10名	
声楽コース	ピアノコース	弦楽コース	管打楽コース	作曲理論コース	沖縄文化コース	音楽学コース	琉球古典音楽コース	琉球舞踊組踊コース
独唱 重唱 オペラ 合唱	独奏 重奏 伴奏	独奏 室内楽 オーケストラ	独奏 室内楽 オーケストラ	創作 編曲 音楽理論	沖縄を中心とする音楽、舞踊の研究 アートマネジメント	日本音楽史 西洋音楽史 民族音楽学	歌三線 琉球箏曲	琉球舞踊 組踊
専門教育科目（必修・選択）								
芸術教養科目、沖縄の文化に関する科目、健康運動科目）、資格課程（教職課程、博物館学課程）								

音楽芸術研究科						
舞台芸術専攻　定員4名		演奏芸術専攻　定員8名			音楽学専攻　定員3名	
琉球古典音楽専修	琉球舞踊組踊専修	声楽専修	ピアノ専修	管弦打楽専修	音楽学専修	作曲専修
歌三線 琉球箏曲	琉球舞踊 組踊	独唱 オペラ	独奏 重奏 伴奏	独奏 室内楽 オーケストラ	音楽史 民族音楽学 舞踊芸能論	創作 編曲 楽曲分析
関連科目						

（後期博士課程）	
研究領域	芸術表現研究領域
民族芸能論	造形芸術　　音楽芸術

	芸術文化学部門

10月

1日　後学期開始及び後学期授業開始
3日　博物館実習ガイダンス
12日　第36回洋楽定期公演
25日～26日　大学院音楽芸術研究科入試
31日～11/1　沖芸祭準備（休講）

11月

2日～3日　沖芸祭（休講）
4日　沖芸祭片付け
8日　第36回琉球芸能定期公演
22日～23日　学校推薦型選抜（美術工芸学部・音楽学部）

12月

6日　芸術文化学研究科（博士課程）研究発表会（1年次生）
オープンキャンパス（音楽学部）
6日～7日　博物館実習見学会・報告会・事後指導
14日～18日　絵画専攻空間表現展内覧会
20日～1/8　冬季休業
24日～28日　後学期12月集中講義期間

2026年

1月

10日　第31回オーケストラ定期演奏会
13日　後学期後半授業開始
13日～18日　絵画専攻油画2・3年生展
17日～18日　大学入学共通テスト
30日～2/3　工芸専攻3年生展
30日～2/6　大学院音楽芸術研究科修士演奏会
31日～2/1　大学院造形芸術研究科入試（2月試験）
大学院音楽芸術研究科入試（2月試験）

2月

6日～22日　後学期2月集中講義期間
7日　第29回室内楽定期演奏会
7日～11日　彫刻専攻3年生・専修1年生展
11日～15日　美術工芸学部・大学院造形芸術研究科卒業・修了展
22日　卒業論文・修士論文発表会（音楽学コース、音楽学専修）
25日～27日　一般選抜（前期日程）

3月

1日～31日　春季休業
3日～5日　大学院芸術文化学研究科入試
6日～7日　第33回卒業演奏会
12日～14日　一般選抜（美術工芸学部　後期日程）
18日　卒業式・修了式
22日　オープンキャンパス（美術工芸学部）
31日　後学期終了及び学年終了

美術工芸学部

美術工芸学部
Webサイト

【美術学科】

- 絵画専攻
  油画分野・日本画分野
- 彫刻専攻
- 芸術学専攻

【デザイン工芸学科】

- デザイン専攻
- 工芸専攻
  染分野・織分野
  陶芸分野・漆芸分野

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、大学ディプロマ・ポリシーを基本に、加えて以下に掲げる学修成果を獲得し、最終学年における卒業作品又は卒業論文の提出を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。

1　美術・デザイン・工芸の分野における基本的な知識を体系的に理解している。
2　自己の創造的活動を歴史、文化、社会、自然等と関連付けて考察できる。
3　専攻分野の専門的な技能と研究能力を身につけている。
4　卒業後も主体的に創作、研究を継続し、それらを社会に発信する意欲と能力を備えている。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、大学カリキュラム・ポリシーを基本に、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

1　専門分野の実技と理論において、必修科目を中心とした体系的な授業科目の編成
2　専門教育の４年間にわたる段階的履修
3　自らの学修計画に基づき主体的に履修できる選択科目の編成
4　大学の学修活動全体を通じて汎用的基礎能力を育成する教育の実施
5　現代社会における美術・デザイン・工芸の役割を認識し、地域との連携を図り、社会との関係を学ぶ教育の実施

学修成果の評価は、評価の観点を示した上で授業科目の到達目標の達成度を基準に、作品・論文・レポート・筆記試験等により行います。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

【教育の理念】

大学の教育理念に基づき、沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、沖縄の伝統に根差した美術工芸はもとより造形芸術に新たな地平を切り拓き、自ら社会的役割を担える作家、研究者、教育者などの専門家を育成するため、専門的素養と総合的知識、国際的視野を身につける教育を行います。

【求める人物像】

美術工芸学部の教育を達成するために、次に掲げる知識・技能や能力（思考力・判断力・表現力等）、目的意識・意欲等を備えた人材を求めます。

1　本学及び美術工芸学部の教育の理念をよく理解し、大学

教育研究上の目的

美術工芸学部は、伝統芸術文化の継承と創造的芸術の表現を専門的かつ横断的に教授研究して、優れた芸術家をはじめとする社会的に活躍できる人材を育成し、もって幅広い芸術文化の発展に貢献することを目的とする。（学則第４条の１号）

美術工芸学部の教育方針

沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、沖縄の伝統に根差した美術工芸はもちろん、造形芸術に新たな地平を切り拓き、自ら社会的役割を見出せる作家や研究者などの専門家の養成をめざします。
高い技術や専門知識、総合的かつ国際的な視野を身につけ、次代を担う個性的で優れた人材を育成します。

での学習に必要な基礎的な知識と技能を備えている人

2　美術・デザイン・工芸分野における制作や学習において、自ら課題を発見し解決するための思考力、判断力、表現力を備えている人

3　美術・デザイン・工芸の分野において作家、研究者、教育者などの専門家になる意欲のある人

4　芸術文化の多様な背景を理解し、人とのコミュニケーションを大切に考え、社会性を認識し主体性を持って他者と協働できる人

5　沖縄固有の芸術文化や自然等に関心があり、沖縄で学ぶことに意義を見出せる人

【入学者選抜試験の基本方針と実施】

美術工芸学部においては、学部の教育理念を踏まえ、各専攻の専門性に沿った試験を課し評価します。また、専攻ごとに設定された多様な入試科目において、「学力の３要素（基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性・多様性・協働性）」を総合的に評価します。なお、入試区分及び募集枠ごとに総合点の上位から合格者の選抜を行います。

各入試区分における評価方法は以下の通りです。

1　一般選抜では、大学入学共通テストにおいて国語、外国語及び任意の１科目の合計３科目を課し、大学での学習に必要な知識、技能、思考力等を測り評価します。また、個別学力検査等において、実技検査、小論文、面接（プレゼンテーションを含む）を実施し、専門分野における基礎的能力、主体性及び将来性を測り評価します。面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び志願者本人の記載する資料等を活用します。

2　学校推薦型選抜では、絵画・デザイン・工芸各専攻は課題作品、小論文の提出と面接（プレゼンテーションを含む）を、芸術学専攻は小論文の提出と面接、口述試験を実施し、大学での学習に必要な知識、技能、専門分野における基礎的能力、主体性及び将来性を測り評価します。面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び高等学校長からの推薦書、志願者本人の記載する資料等を活用します。

3　総合型選抜では、彫刻専攻・芸術学専攻・工芸専攻は、専攻別に設定する試験（実技検査、小論文、作品資料の提出等）及び面接（プレゼンテーション含む）を課し、大学での学習に必要な知識・技能・思考力・判断力・表現力等を測るとともに、本人の能力・適正や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に評価・判断します。また、多面的、総合的な評価を行うため、面接等において、志願者本人が記載する書類等を活用します。

絵画専攻

絵を描き心の眼を養う

●油画　●日本画

大学Webサイト　絵画専攻Webサイト

■求める人物像

人は生きる指針、共存する証として、どのような時代においても絵を描き続けてきました。高度に情報化し、グローバル化した現代の社会環境においても、自分自身の現実感や存在感を測り、イマジネーションを共有する手段として、普遍的な絵画表現の意義や社会的役割を問うことは、とても重要と考えます。
絵画専攻では、亜熱帯に位置する沖縄の歴史・芸術文化・環境・自然に理解と愛情を持ち、自らの専門性と創作力を高めるために、造形教育の専門性に対して探究心を持って取り組み、他者とのコミュニケーションを積極的に育む人材を求めています。

専任教員 | 絵画

知花　均	教授	（油画・凹版）
香川　亮	教授	（日本画・凸版）
髙﨑　賀朗	教授	（油画・孔版）
阪田　清子	准教授	（油画・インスタレーション）
喜多　祥泰	准教授	（日本画）
関谷　理	准教授	（日本画）
平良　優季	助教	（日本画）

教員からのメッセージ

香川　亮 教授

絵画専攻は、基礎的な実習から専門的な研究に至る各自の絵画表現を学ぶ美術教育の現場です。少人数制による授業が行われ個々の表現能力を高め、自由な感性や創造力の育成を、制作を通じてサポートします。自然豊かで特色ある個有の文化を持つ沖縄では、今日多様な絵画表現が生まれつつ有ります。今後に拡がりつつある国際的視野に立ち、皆さんと常に新鮮な想像力と新しい自己発見を探求し学んで行きましょう。

■カリキュラムの特徴

存在価値の多様化や均質化するグローバル情報社会にあって独創的な画家や造形作家、教育者に求められる基本的な実技能力（観察、描写、素材応用、プレゼン）を深める教育を行います。多様な絵画・造形表現の理解と課題制作による学修から美的価値観を涵養する中で個性を伸ばし、展示や講評、学外活動などを通じ他者理解と社会性を育みながら、学生の独自性を尊重した教育を目指します。個性的な表現活動を支える身体的技術力と思考力、教養と専門性の深度を総合的に養い、卒業後も創作活動を継続し美術の社会的役割に反映しうるよう自ら課題を創出し、独創的な表現を探求する能力を育成します。

卒業・修了制作展展示風景

卒業・修了制作展展示風景

裏打ち実習

日本画制作風景

油画授業風景

油画制作風景

■教育課程の概要

油画分野では素描、ドローイング、油彩、素材応用表現をカリキュラムの土台とし、版表現、映像表現、インスタレーション等の実習を通して現代に対応する感性、表現力を養います。2、3年次の進級展を通して自己が創出する表現テーマを探求し、段階的に卒業制作へ向かいます。
日本画分野では素描と伝統的な材料技法の基本を理解することから始め、実習を通して模写、絹本、箔、裏打ち等を習得し、課題制作として人物、風景、自由制作などで修練を重ね、現代における表現研究の下に自己のテーマに基づいた卒業制作に向かいます。
両分野の共通の授業等としては、学外演習（離島フィールドワーク）や古美術研究（京都、奈良を主とした研修旅行）、写真（アナログ）や版画（凹凸孔）実習、絵画特論Ⅰ、Ⅱ授業として美術作家、キュレーター、評論家による集中講義があります。

■絵画専攻の必修科目

- 絵画基礎
- 日本画Ⅰ～Ⅳ
- 箔
- 装丁実習
- 油画Ⅰ～Ⅳ
- 染
- 空間デザイン
- 絵画特論Ⅰ・Ⅱ
- 古美術研究
- 彫刻（絵）
- デザイン（絵）
- 工芸（絵）

**ピカード
奏レベッカ**

**（沖縄県出身）
日本画４年生**

大学選択では、自分が足りていないと感じていた基礎画力を鍛える為、日本画への進学を決意しました。
本学では自身の専攻での実習だけでなく、一般教養の授業でも先生方が芸術に関わる話題を取り扱ってくださります。そのため、美術史などの分野に明るくなくても基礎から学ぶことができ、自分の興味の幅を広げる形で世界を広げることができると実感しています。
他にも、授業以外の展示会などでも、手厚いサポートが受けられる事が特徴です。
文化祭や学内資料館での展示は勿論、企業様との連帯事業を通して、外部のでの展示会の機会もあります。また、大学周辺にはギャラリーも多く、積極的に活動すれば個展やグループ展の開催にも挑戦できます。
大学生活を通して挑戦し続けた経験は、私にとってかけがえのないものひとつです。

彫刻専攻

次世代の表現者になるために自らの手で作る力を学ぶ

大学Webサイト

彫刻専攻
Webサイト

■求める人物像

彫刻専攻では、将来、彫刻を中心に造形芸術の様々な分野で活躍し社会に貢献できる作家、教育者など専門家になれる人材の育成を目指します。基礎的な観察力、造形力、立体表現能力を備え、自己を深く見つめ自然や社会との関係を思索し、何よりも造形行為と自己の将来を肯定的に重ね合わせることのできる人を求めています。

専任教員 | 彫刻

砂川　泰彦　教授　（石彫他）
松本　隆　教授　（テラコッタ・鋳造他）
河原　圭佑　准教授（金属他）
長尾　恵那　准教授（木彫他）
吉田　香世　助教　（金属他）

教員からのメッセージ

長尾　恵那 准教授

私は幼い頃から絵を描くのが好きで、よく自分で物語を考えて絵本を作っていましたが、ある時父が物語に登場する動物を紙粘土で立体にしてくれました。平面の中だけの世界が自分と同じ次元に現れた時の感動は今でも忘れられず、その経験が現在の自分に繋がっている気がします。「彫刻」は、はじめからあることが当たり前なのではなく、その存在自体について考える哲学的な側面を持っていて、そこが大きな魅力だと思っています。

■カリキュラムの特徴

将来、専門家として創作活動を行うために必要な基礎学修の中で、個性の伸長を期して主体性・独創性を重視した教育を行います。また、学内外での実践的、体験的プログラムにおいて、学生の社会性と協働精神の育成を図ります。
彫刻専攻の教育課程は、導入から専門教育まで単に造形技術の修練のみにとどまらず、将来にわたって自ら主体的にテーマを見出し、独創的な表現の探求を続けて行くための基礎的な能力育成を目的にしており、学部カリキュラム・ポリシーを基本に、教養・専門、実技・理論教育を一体的、総合的に捉えています。学修成果は、学修目標の達成度を基準に、課題等の成果物とそれに至る試行、造形思考の深さ、説得性などによって総合的に評価します。

塑造実習

石彫実習

木彫実習

金属実習

作品設置風景（あざまサンサンビーチ）

古美術研究（近畿地方）

学部３・４年生、大学院生による
前期成果展（附属図書・芸術資料館）

■教育課程の概要

彫刻専攻では、学生個々の創造能力育成に主眼を置き、1年次から３年次前学期を通して塑造、石彫、木彫、金属、鋳造、テラコッタ等の基本的な技法と理論を修得します。また、古典から近現代にいたる彫刻とその周辺の歴史を学びつつ、３年次後学期から自己のテーマに基づいて、より実践的な展示発表を前提とした制作を行い、４年次では、前・後学期ごとに明確な計画を立てて制作し卒業作品とします。

■教育環境

彫刻専攻の教室・アトリエは、1年次から大学院まで、学年を越えた共通の学修・制作の現場となっており、下級生は上級生との交流の中で多くを学ぶ環境にあります。
また、大学と社会の関わりを実践的に学ぶため、市町村との共催による学外での演習、展覧会、シンポジウム等を行い、さらに広く国際的な視野を培うため、海外の芸術大学や卒業生の留学先等との国際交流を積極的に進めるなど、活気に満ちた教育環境づくりに専攻を挙げて取り組んでいます。

■彫刻専攻の必修科目

- 彫刻Ⅰ～Ⅳ
- 古美術研究
- 構成
- 絵画（彫）
- 工芸（彫）
- 彫刻特論Ⅰ・Ⅱ
- デッサン
- 鍛造・鋳造
- デザイン（彫）
- 美術解剖学Ⅰ（骨）
- 彫刻史

渡邊　祈
（わたなべ　いのり）

（愛知県出身）
彫刻専攻 4年

私が本学への進学を決めた理由は、沖縄ならではの風土や文化に触れながら、作品制作を通じて自らの思考や視野を広げたいと考えたからです。本学の彫刻専攻には、2つの大きな特徴があると感じています。1つ目は、彫刻における基礎技法や思考をじっくり学べる点です。石彫や木彫の実習では、道具作りから始め、素材の歴史や特徴を実践を交えて学ぶことができます。2つ目は少人数制です。広くアトリエが使えるため、大きな作品や複数の作品に挑戦できる環境があります。また、縦横の繋がりが強く、学習面以外の悩みも気軽に相談できる雰囲気が整っています。入学前は、地元から遠く離れた沖縄での生活に不安もありましたが、今では勇気を出して沖縄県立芸術大学を選択してくれた自分に感謝しています。

芸術学専攻

芸術や美とは何かを追求し、
批評精神を養う。

大学Webサイト　芸術学専攻Webサイト

■求める人物像

芸術学専攻は、沖縄県の特色ある文化と歴史を尊重し、日本にのみとどまらず国際的な教養を備え、芸術の様々な領域で活躍できる人材の育成を目指します。
この目的のため、本専攻では以下の人材を求めます。

❶多様な芸術作品や芸術に関する現象に興味を持ち、それらについての知見や情報を進んで収集する意欲を持つ人。
❷芸術についての知識や思想を「言葉」によって表現し、他者と知的なコミュニケーションを交わすことに関心がある人。
❸現代社会における芸術のあり方を考え、その未来を展望することを目指す人。
❹芸術作品を積極的に鑑賞し、また制作や芸術運動への参加を通じて、具体的な経験に即した思考を行える人。

専任教員 ｜ 芸術学

喜屋武	盛也	教授（美学）
小林	純子	教授（日本美術史）
下野	玲子	教授（東洋美術史）
土屋	誠一	教授（芸術学）
太田	泉フロランス	講師（西洋美術史）

教員からのメッセージ

喜屋武　盛也 教授

芸術学を沖縄で学び、芸術や人々との絆を深めてみませんか。沖縄での大学生活は地域固有の文化に接し理解を深めながら世界へと視野を広げる機会となり、共通の興味を持つひとたちや社会との繋がりを生み出すことでしょう。批評家、キュレーター、アーティスト、教師、研究者など、様々な道が開かれています。芸術の理論や歴史を通じて心を豊かにし、より良い社会づくりに貢献することを目指す方たちの入学を待っています。

■カリキュラムの特徴

芸術学専攻では、芸術に関する論文を書くことの出来る学問的な力を備えた学生の育成を主要な目的としています。研究の対象となる分野は、沖縄の文化芸術のみならず美学・芸術学・日本美術史・東洋美術史・西洋美術史と幅広く設定され、学生の個性に応じて、自分に相応しい学問領域を選択できるようになっています。
また、芸術大学の学生にふさわしい実技と理論の調和を目指すことも大切な目的の一つです。語学の選択範囲も広く、英語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・ラテン語・漢文などの他に、日本語の歴史的文書を読むための授業科目を受講できます。
１年次においては実技と理論の学習が半々になるようにカリキュラムが構成されていますが、２年次以降では、理論と歴史や語学などの学習が中心となります。２年次における「学外研究」で多くの芸術作品に触れ、芸術と社会とのかかわりを考える機会を得ることによって、自分の目指す分野が明確になっていきます。３年次で専門分野の研究を深め、４年次の「卒業論文」において、学生はそれまで大学で学んだ知識と陶冶された感性を有効に用いて一つの研究課題の下に論文を執筆することになります。
さらに、就学中に博物館学課程や教職課程の科目を受講することで、学芸員資格や教員免許状を取得することができるように配慮されています。

授業風景

実技研究

学外演習

学外研究

■教育課程の概要

■芸術学専攻の必修科目

●実技研究　●基礎演習　●学外研究　●卒業論文
（他選択必修科目あり）

潘炳伸（ハン　ヘイシン）

（中国 遼寧省出身）
芸術学専攻3年生

芸術学は、創造力と多様性に満ちた学問であり、深い理論的基盤を持ちながらも、豊富な実践的内容を含んでいます。それは単なる芸術形式の研究にとどまらず、人間の文化や精神世界の深い探求でもあります。特に沖縄においては、豊かな文化遺産と独自の芸術伝統があるため、芸術学はさらに独特な魅力を持っています。
本専攻の特徴は、学際的な視野と多様性にあります。様々な芸術形式に触れる事ができるだけでなく、歴史、哲学、文化研究などの関連学問を通じて視野を広げることができます。古典絵画の鑑賞から現代映画の分析に至るまで、芸術学は興味を深め、内面的な発見と刺激を与えてくれるでしょう。
もしあなたが芸術に情熱を抱き、芸術を通じて世界を探求したいと考えているなら、本学の芸術学専攻は多くの発見と達成感をもたらす場となるでしょう。

デザイン専攻

南の島で
デザインを学ぼう。

大学Webサイト

■求める人物像

デザイン専攻は、日本最南端に位置する沖縄県の特色ある文化を、誇りを持って受け継ぎ、伝統や工芸の基礎的研究を基に、地域の経済・産業や文化活動との連携を図りながら、今日的デザインの課題を理解し、未来的志向に立つ高度な情報技術と国際的な視野を持つ人材の育成を目的とします。以上の目的に賛同し、主体的な学習能力を養い、専門分野に片寄らない健全な社会人となれるような人物を求めています。

専任教員	デザイン	
赤嶺　雅	教授	（グラフィックデザイン）
仲本　賢	教授	（映像デザイン）
宮里　武志	教授	（環境デザイン）
笹原　浩造	准教授	（グラフィックデザイン）
又吉　浩	准教授	（メディアデザイン）
高田　浩樹	准教授	（プロダクトデザイン）
赤塚　美穂子	講師	（プロダクトデザイン）
高野　大	助教	（映像デザイン）

教員からのメッセージ

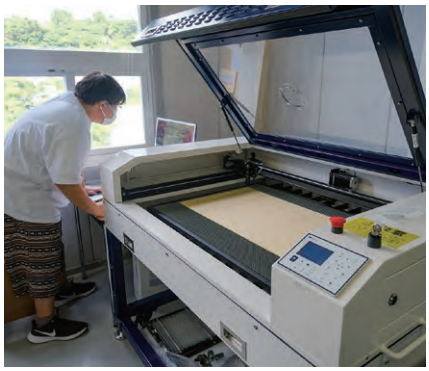
笹原　浩造 准教授

沖縄の手しごとに魅了されつつも、既にドローンが飛んで広がった視野、ＡＩとの共創も求められ変容する制作環境など、見る触れるデザインのあり様や社会生活との関係性は変容期を迎えています。そしてアートとデザインの関わり合いも、日常生活に重要性を増しています。グラフィック、プロダクト、アート、スペース、メディア等の領域が交わった新しいデザインのあり方への期待値は高まっています。授業構成はデザイン基礎をもとに、学生それぞれの希望・進路に応じて選べる課題選択を用意しています。また非常勤講師には県内外の企業機関、広告代理店、デザイン会社、大学等からの実務家を招聘しています。これからの生活とデザインについて、全国からの学生各々の研究や活動に応じる学びの場を目指しています。

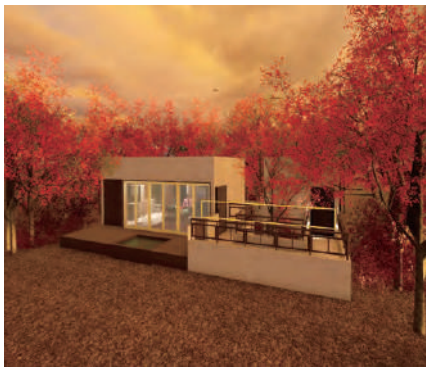
■カリキュラムの特徴

デザイン専攻では、専門領域の垣根を取り払い、様々なデザイン分野の中から学生が主体的に授業を選択できるようにカリキュラムを構成しています。
また、各学年に学ぶ主なこととして、1年生では、デザインの基礎を学び、デザインを学ぶ者としての自覚を促す。2年生では、デザイン機器と素材の研究をし、合わせてグループ研究を行いながら、3年生では、公共物のデザイン等を通して、デザイナーとしての社会的役割を確認。4年生では、個別の卒業制作を通してデザイナーとしての個人的資質の追究を行う。この4年間の課程を通じて、市場調査方法、社会から支援を得る方法、企画の的確な提示方法等を学び、デザイナーとしての資質を完成させます。
デザイン専攻は、社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

生活デザイン
生活道具としての器具・機器の開発や改良に関する造形的学習をします。



産業デザイン
情報、生産、流通などを通して、製品計画について学習します。



環境デザイン
公共空間における様々な生活装飾や空間の造形的学習をします。

グラフィックデザイン
広告やサイン計画を通して、レイアウト、イラストレーション、レタリング等の学習をします。

メディアデザイン
アニメーション、絵本、キャラクター、動画編集などの様々なメディアを通して表現方法を学習します。

映像デザイン
写真、ビデオ、CGを中心、映像表現を学習します。

■教育課程の概要

デザイン専攻は、1年次に造形基礎を通して描写力・構成力を養い、2、3年次では分野的領域を選択制度により、専門的な実習・演習・講義を行います。さらに、3年次のインターンシップ（企業実習制度）は産学の結びつきを意識し、実社会との接点の有効性を期待しています。4年次では、各学生が独自にテーマを決めて卒業作品を制作します。

■デザイン専攻の必修科目

- デザインⅠ～Ⅳ
- 木工芸基礎
- 立体造形（デ）
- 素描（デ）
- 色彩構成
- 空間構成
- デザイン特別演習
- 学外研究
- 絵画（デ）
- 彫刻（デ）
- 工芸（デ）

植田　有里沙
（うえだ　ありさ）

（奈良県出身）
デザイン専攻４年

私は高校で美術の学びを経て、デザインを追求し仕事にしたいと思い本学へ進学しました。本学は教授との距離が近く、制作での悩みがあればすぐに相談できます。また、関連する機材を自由に使えるので、思い立った時にすぐに制作に取り掛かれます。さらに、様々なデザインの領域を自由に選択して学ぶことができます。
私は主にグラフィック系統の講義を選択していましたが、その他の領域の講義も取得したことで、立体や映像などへの関心が増えて、表現の幅が広がりました。入学当初はコロナの流行もあり大変でしたが、今はこの環境を活用して制作と研究に打ち込んでいます。
皆様にもぜひこの環境で存分に学んでいただきたいと思っております。

工芸専攻

感性を磨き、
新しい伝統を創造する。

大学Webサイト

■求める人物像

○沖縄固有の文化、また広く地域の芸術文化に関心があり、将来工芸作家、教育者、研究者等専門家として活躍できる人。
○工芸技術の習得及び研究に興味があり、意欲的に作品制作に取り組み、感性を磨き、他とのコミュニケーションを密にして、自ら積極的に学び、自己形成に努力できる人。
○芸術文化、とりわけ伝統工芸、伝統文化の継承、発展に関心があり、グローバルな視点で沖縄の工芸文化研究に意欲のある人。

専任教員 | 染・織・陶芸・漆芸

［染分野］
名護　朝和　教授
宇良　京子　准教授
坂本　大地　助教
泉　佳那　助手

［織分野］
花城　美弥子　教授
久保田　寛子　准教授

［陶芸分野］
山田　聡　教授
島袋　克史　准教授

［漆芸分野］
當眞　茂　教授
松崎　森平　講師
島袋　香子　助手

教員からのメッセージ

當眞　茂 教授

沖縄は全国でも有数の工芸王国です。琉球国と呼ばれていた時代より、脈々と受け継がれてきた伝統技法が数多くあり、生活の中にしっかりと根付きながらも、日々、新しい工芸作品が生まれています。日本や中国、東南アジアの国々との交流の歴史を通して培われた文化は、力強い個性を発揮し、豊かな自然と調和しています。この地だからこそ、生み出される芸術が確かにあります。皆さんも一緒に、沖縄固有の文化が育んできた環境の中で、染・織・陶芸・漆芸を学び、作品制作に勤しんでみませんか。
東アジアのキーストーン・沖縄から、新たな工芸を世界へ発信しましょう。

染分野

■カリキュラムの特徴

染分野では、紅型に代表される型表現を基礎とした様々な染色技法を習熟することによって現代社会に発信・展開する力を身につける教育を主眼としています。紙漉・琉球藍研究等を通して素材の知識を深め、型紙研究、着物制作において造形力を高めるカリキュラムです。
技術力に裏打ちされた創造性豊かな染色表現ができる人材育成を目指しています。

織分野

■カリキュラムの特徴

織分野では、絣や浮織技法を用いた織制作をはじめ、沖縄特有の植物繊維の糸作りなど天然素材研究を行います。多様な専門技術や表現方法を学び造形表現への展開を図り、個性のある創作へと応用、展開を行います。
そして、織を通して沖縄の自然や文化、社会との関わりを模索し、自己の将来を明確に展望できる人材の育成を目指しています。

陶芸分野

■カリキュラムの特徴

陶芸分野では、素材、思考、技術の3つのファクターの相互関係や連動性をカリキュラムの根幹として考えています。陶という可能性を秘めた素材を知覚することによって創造するという欲求が生まれ、それと連動するように思考が始まり、その思考を具現化させるために技術や造形力が必要となります。学部ではこの3つのファクターの相互関係や連動性の理解を促し、様々なカリキュラムを通して陶でできる多角的な表現力・造形力を養い、それを社会に対し発信できる人材の育成を目指しています。

漆芸分野

■カリキュラムの特徴

漆芸分野では、琉球漆芸の技法や表現を吸収するとともに、幅広く日本漆芸全体を学ぶことを基礎とした上で各自の個性を伸ばす教育を目標としています。独自のカリキュラムを通して、創作活動を実践していく専門性を習得することと同時に就職などの多様な進路にも対応し、現代社会に貢献できる「人間力」を身につけることも目指しています。創造の柱となる「素材・技術・表現」を3要素として「歴史・科学・社会」とリンクしながら総合的なバランスの良い教育を展開していきます。

■教育課程の概要

1年次から2年次前期まで美術全般を幅広く学ぶことで工芸専攻の基礎力を養うと同時に工芸専攻の4分野（染・織・陶芸・漆芸）の実習を通し、工芸制作の基礎を学びます。
2年次後期からは4分野に分かれ、専門的に素材の知識、技法や表現を3年次まで学び、学部の集大成として4年次の卒業制作へと進みます。

■工芸専攻の必修科目

- 描写
- 色彩
- 立体構成
- 工芸Ⅰ・Ⅱ
- 立体造形（工）
- 版画
- デザインと素材
- 古美術研究
- 陶芸Ⅰ～Ⅲ
- 窯業化学
- 陶芸特別演習
- 染Ⅰ～Ⅲ
- 織Ⅰ～Ⅲ
- 繊維科学
- 染色化学
- 染織特別演習
- 漆芸Ⅰ～Ⅲ
- 漆芸科学
- 漆芸特別演習
- 絵画（工）
- 彫刻（工）
- デザイン（工）

染分野教育環境

染分野には、着物制作専用の引染工房があり、3年次の課題で全員が着物を染めます。また、タペストリーやパネル等の大きな作品を染める工房もあります。共同の施設として、講義室、染場、外部作業場、コンピュータ室等もあり、充実した環境が整っています。

外部作業場（水元場）

2年生「古典紅型（筒）」

3年生「着物制作」

松原 梨々夏「一幕」

中原 楠
「The globe・mangrove」

宮崎 いぶき「日常」

上原　希天
（うえはら　のあ）

（沖縄県出身）
染分野4年生

私は、高校で勉強した染織をもっと詳しく学びたいと思い、工芸専攻に入学しました。工芸専攻では、染・織・陶芸・漆芸の4分野の基礎を学ぶことができ、どの分野も設備が整った環境でのびのびと制作でき、いろんなことに挑戦できるのがとてもいいところだと思います。
染分野では、紅型の基礎や、シルクスクリーンや和紙など、幅広い染めの表現を学ぶことができ、自分のやりたい表現を模索することができます。また、染分野の先生方、外部講師の方の充実した指導で新たな発見があったり、視野を広げることができます。やりたいことを実現できるよう先生方が熱心に指導、サポートしてくれるので、制作のワクワクを感じられる場所です。
受験生の皆さんが、充実した、素敵な大学生活を送れるよう願っています。

織分野教育環境

織分野では、一人一台織機完備の織工房をはじめ、糸染めや染色実験を行う染場や外部作業場、撚糸機を備えた織機械室、意匠設計を行うコンピュータ室、素材研究に必要な芭蕉畑等、制作・研究環境の充実を図っています。

織工房

着物ファッションショー

森田希鈴「サン」

宮城良美「くくる」

石川　友紀子
（いしかわ　ゆきこ）

（沖縄県出身）
織分野　4年生

私は高校生の時に沖縄の染織について学び、経糸に緯糸が入り布へと変わっていく様子や色の重なりにとても魅力を感じ、織りの技法を用いた作品づくりをしたいと思い工芸専攻へ進学しました。 織り分野では課題制作を通して、基礎的な技術、絣や花織などの技法について段階を踏んで学び、身につけていきます。素材研究の授業は苧麻や芭蕉から糸を作るなど貴重な経験ができます。作品制作では、先生方や仲間たちと意見を共有しながら制作に取り組み、たくさん刺激をもらい、自分自身の個性や表現の仕方を見つけ出すことができました。
沖縄には各地域に様々な織り物があります。ぜひ、皆さんも多彩な魅力がある織りの世界にふれてみませんか。私はこれからも、大学での学びを活かして、織りを通して表現することの楽しさを追求していきたいと思います。

陶芸分野教育環境

陶芸分野では、一人に一台ずつ電動轆轤が与えられます。そして様々な焼成実習が行えるように登り窯・ガス窯・電気窯を設置し、また釉薬などの科学的な実験や研究も行えるように釉薬調合室や実験機器の設備の充実を図っています。

陶磁器製作室

２年生「ロクロ基礎」

寺本希人「白化粧壺」

３年生「染付」

比嘉文音「逢う」

比嘉　文音
（ひがあやね）

（沖縄県出身）
大学院
陶磁器研究室2年生

陶芸分野では学部2年生の後期から、電動ろくろでの水挽きや石膏型での鋳込み、染付や絵付けなどの陶芸技法を学び、3年生の後期から自分自身でテーマを決めた制作に取り掛かります。自分の作りたい作品に応じた制作技法や焼成方法を先生方から教わりながら制作できる環境が整っています。小さな実験から大きな作品にも挑戦でき、先輩や後輩と一緒に窯を焚く機会も多い為、学生同士の仲も深く互いに切磋琢磨できます。大学院からは公募展にも挑戦し、販売や展示の経験を積むことができました。制作する上で悩みはつきものですが、それらを支えてくれる先生方のおかげで自分の探究心をどこまでも探ることがでました。高校まで特に美術に優れていた訳でもなく進学しましたが、今では自信を持って自分の作品を発表することができます。

漆芸分野教育環境

漆芸分野では、実習室に様々な道具や材料を機能的に収納できる個人用作業机を置き、デザインワークや下地作業を行います。加飾室や塗部屋、大型作品の制作スペースとしての造形室や木工室の施設、電機回転ぶろ、乾漆用電気炉、堆錦用電動ローラー、回転研磨機、漆精製用ふね他、多くの機器を備えています。

漆芸実習室

沈金

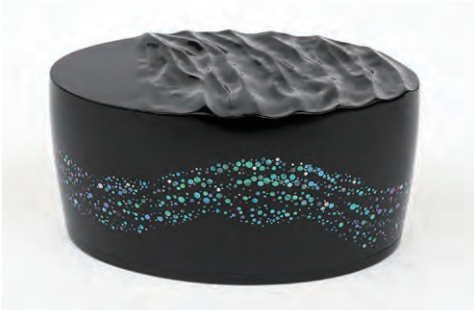
箔絵

研ぎ出し蒔絵

密陀絵

堆錦

平蒔絵

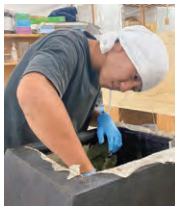

児玉夏菜「潮流」

螺鈿

堆錦

漆精製

本山　優
（もとやま　まさる）



（香川県出身）
漆芸分野４年生

高校から香川で漆芸を学び、取り巻く自然や文化など、新しい環境でさらに漆について学びたいと思い、沖縄県立芸術大学の工芸専攻漆芸分野に進学しました。琉球漆芸以外にも、やちむんや紅型、芭蕉布など、島国ならではの独自の発展をとげてきた沖縄の工芸の数々には、どこか、日本本土とは異なる力強さを感じることができ、その力強さが、自身の作品制作において、大きな刺激となりました。美しい自然環境やおおらかな雰囲気、キャンパスが首里城の近くにあることなど、沖縄での制作活動は、本土では味わうことのできない独特の魅力があり、私はここに来て良かったと思っています。卒業後は沖縄に残り、この環境の中で、自然に寄り添ったものづくりを続けていこうと思います。

卒業・修了作品展
卒業論文・修士論文発表会

卒展アーカイブ

沖縄県立博物館・美術館の共催を得て、美術館を会場として作品展示を行うとともに、本学当蔵キャンパス一般教育棟大講義室では、卒業論文・修士論文発表会を開催しました。本展覧会は卒業・修了年次の学生たちの作品を展覧し、研究成果をより広く社会へ発信し還元することを目的としています。
沖縄の豊かな自然や伝統に育まれた若者たちが本学を巣立ち、各分野で新しい創造的な芸術文化を形成・発展させていく、その足がかりとなる展覧会にしたいと考えています。また、県内の高校生を対象に作品鑑賞会を開催しており、未来を担う若者たちの育成や地域の方々との交流にも寄与することを目標にしています。
関連イベントとして、本学音楽学部によるミニコンサートも開かれ、とても華やかな展覧会となりました。

美術工芸学部の地域貢献

絵画専攻
那覇市立病院100点の絵画作品展

期　間：2012年9月～現在
場　所：那覇市立病院
主催者：那覇市立病院・本学絵画専攻

絵画専攻では、2012年より那覇市立病院内に学生と教員の絵画・ドローイング・版画・写真などの作品を展示するプロジェクトを行っています。病院という医療公共空間において、芸術作品によるホスピタリティ（心からのおもてなし）空間創出の効果を高め、確かめる共同研究の一環として実施しています。病院側と専攻側との調整のもと、1階の外来待合室や5階の検診センターなどに、学部生・大学院生・教員の有志による作品を定期的に入れ替え展示を行っています。

比較芸術学専攻　アートレクチャー
芸術学専攻　特別講座

第1回　「紅型インパクト–紅型が日本の近現代染織に与えた影響について–」
第2回　「琉球王国時代の龍文様について–鎌倉芳太郎写真を中心に–」
第3回　「朱（あか）い鬣（たてがみ）の白馬」

期　間：2024年10月4日、18日、25日
場　所：沖縄県立芸術大学　首里当蔵キャンパス
講　師：第１回 小林純子、第２回 森達也、第３回 下野玲子

アートレクチャー は、「芸術学」という魅力ある学問を広く一般的に皆様に知っていただくために毎年開講している公開講座です。比較芸術学専攻の教員が自身の専門分野から分かりやすく且つ掘り下げた内容を提供しており、好評を博しております。YouTubeでオンデマンド配信を行っているため、遠方にお住まいの皆様にも講座を聴講いただいています。
また、不定期で県内外からゲストをお招きし、特別講座を開催しています。2024年は画家/映像作家で多摩美術大学教授の石田尚志先生や造形作家、都市景観研究家、パブリックアート研究者の樋口正一郎先生をお呼びしました。

美術工芸学部・造形芸術研究科
牧志屋台村プロジェクト

期　間：2023年4月～2024年4月
場　所：那覇市牧志　屋台村「酔夢芝居舞クヮラクヮラ」
事業主：沖縄コンダクト株式会社

希望ヶ丘公園を含む周辺地域の活性化及び、持続可能な街づくりに貢献できる屋台村を目指した「コンダクト株式会社」との産学連携事業。リサーチ・コンセプト立案・施設名発案・壁画・彫刻・シーサー・フェンス・ロゴサイン・案内板など空間を彩る各種アート・デザインを各専攻専修・OBによる24名が参加して手掛けました。

沖縄県首里城復興基金事業
首里城正殿木彫刻物復元製作

期　　間：2024年4月1日～2025年3月31日
場　　所：首里城正殿
支援団体：沖縄県土木建築部首里城復興課

2019年10月に焼失した首里城正殿の復元に向け、首里城復興基金を活用した沖縄県の取組みの一つである正殿木彫刻物の復元製作を本学が受託し、2023年度から約２年をかけて美術工芸学部彫刻専攻の教員と卒業生がそれを担いました。本学が復元製作した木彫刻物は、正殿外部正面の向拝透欄間「牡丹唐草獅子」、向拝奥の「金龍」「獅子」と正殿内部２階御差床（うさすか）須弥壇の「龍柱」「羽目板」の５件23箇所で、長尾恵那准教授、儀保克幸非常勤講師、卒業生の吉田俊景・伊波調・小泉ゆりか各氏がそれぞれ複数箇所を担当しました。国産の檜（ヒノキ）と樟（クス）で製作された彫刻は、白木（木地）の状態で2024年度中に国に順次引渡され、髹漆（きゅうしつ）工程を経て各箇所に取付けられ、2026年秋の正殿竣工とともに披露されます。

音楽学部

音楽学部
Webサイト

【音楽表現専攻】
- 声楽コース
- ピアノコース
- 弦楽コース
- 管打楽コース
- 作曲理論コース

【音楽文化専攻】
- 沖縄文化コース
- 音楽楽コース

【琉球芸能専攻】
- 琉球古典音楽コース
- 琉球舞踊組踊コース

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学音楽学部では、大学ディプロマ・ポリシーに基づき、以下に掲げる学修成果を修め、最終学年における卒業演奏又は卒業作品、卒業論文、卒業研究の提出を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。

1 音楽・伝統芸能の各分野における基本的知識・技能について体系的に理解している。
2 音楽・伝統芸能の各分野における基礎的知識・技能について歴史、文化、社会、自然と関連付けて理解できている。
3 課題解決に必要な汎用的能力（論理的思考力、情報リテラシー、コミュニケーション・スキル等）を身につけている。
4 各分野の専門的な知識・技能と研究能力を身につけている。
5 卒業後も社会における自己の役割を認識し、生涯を通じて自律的に学び続ける能力を身につけている。
6 獲得した知識や能力等を活用し、自からの課題を発見し解決する能力を身につけている。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

沖縄県立芸術大学音楽学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学習成果を獲得できるよう、大学カリキュラム・ポリシーを基本に、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

1 学生の多様な資質・能力を伸長するための少人数による教育
2 専門教育（主要科目）における、４年間にわたる段階的履修
3 各専門分野における基本的知識・技能を培うための、必修科目を中心とした体系的・横断的な科目編成
4 自然や地域、言語、芸術諸分野及び一般教養など幅広い教養を通して、汎用的基礎能力を身に付けるための全学教育科目の編成
5 学生の多様な関心や課題発見を促し、自律的に学習できる選択科目の設定
6 様々な学びを統合し、地域・社会との連携を通じて、芸術（音楽・芸能）と社会との関係を学ぶ科目の提供

学修成果の評価は、評価の観点を示した上で授業科目の到達目標の達成度を基準に、演奏・演舞・作品・実践・レポート・筆記試験等により行います。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

【教育の理念】

大学の教育理念に基づき、沖縄県立芸術大学音楽学部では、沖縄で育まれた個性ある音楽・芸能及び普遍的価値を持つ音楽芸術の体系的な研究を通じ、それらの継承発展ともに新たな芸術創造に寄与できる人材育成を目指します。そのために、専門分野における知識・技能を深めるとともに、広い視野を持って思考し、問題解決を行うために必要な教養を身につける教育を行います。

【求める人物像】

音楽学部の教育を達成するために、次に掲げる知識・技能や

教育研究上の目的

音楽学部は、音楽・芸能に関する専門的技能及び諸理論を教授研究として、音楽・芸能における知識、技術、表現力及び他者との協働により社会に対して汎用化できる能力を備えた人材を育成し、もって幅広い芸術文化の発展に貢献することを目的とする。（学則第４条の２号）

音楽学部の教育方針

沖縄県立芸術大学音楽学部では、沖縄の地で育まれた個性の美である伝統芸能はもとより、西洋・東洋にわたる芸術音楽を体系的に研究教授し、将来、実演家、教育者、研究者をはじめとして、音楽芸術分野において社会に貢献できる人材の育成をめざします。
豊かな表現力と高い技術力、そして理論的思考力を涵養し、それらを総合して現代社会に新たな価値をもたらすことのできる人材を育成します。

能力（思考力・判断力・表現力等）、目的意識・意欲等を備えた人材を求めます。

1　本学及び音楽学部のポリシーを十分理解し、大学での学習に自律的に取り組むことのできる人
2　音楽学部における学習に必要な基礎的知識・技能及び課題解決のための思考力・判断力・表現力を備えている人
3　自身の知識・技能をさらに伸ばし、将来、演奏家、作曲家、実演家、研究者又は教育者など、音楽・芸能分野における専門家となる意欲のある人
4　芸術創造の営みについて、現代社会との関わりの中で思考し、主体性を持って多様な人々と協働する意欲のある人
5　音楽や舞踊、沖縄における芸術文化や本学での学びに関心がある人

【入学者選抜試験の基本方針と実施】

音楽学部においては、学部の教育理念を踏まえ、各専攻の専門性に沿った試験を課し評価します。その際、大学入学前に学んでおくべき内容・水準について、募集要項と併せて公表する『試験曲』によって明示するものとします。また、専攻ごとに設定された多様な入試科目において、学力の３要素（「基礎的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「主体性・多様性・協働性」）を総合的に評価します。なお、入試区分及び募集枠ごとに、総合点に基づき合格者の選抜を行います。
各入試区分における評価方法は以下の通りです。

1　一般選抜では、大学入学共通テストにおいて、国語、外国語の２科目を課し、大学での学習に必要な知識・技能・思考力等を測り評価します。また、個別学力検査等において、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）、音楽に関する基礎能力検査（楽典、聴音、副科ピアノ等）及び面接を課し、専門分野における基礎的能力、主体性及び将来性を測り評価します。本区分においては、全般的な学習能力について総合的に評価します。面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び志願者本人の記載する資料等を活用します。
2　学校推薦型選抜では、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）、音楽に関する基礎能力検査（楽典、聴音、副科ピアノ等）及び面接を課し、大学での学習に必要な知識、技能及び主体性等を測り評価します。本区分においては、専門分野における高い能力、調査書及び志願者本人の記載する書類等をもとに実施する面接等における評価を重視します。また、高等学校長からの推薦書を活用します。
3　総合型選抜では、専攻別に設定する専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）、プレゼンテーション及び書類審査・面接を課し、大学での学習に必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を測るとともに、本人の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に評価・判定します。また、多面的、総合的な評価を行うため面接等においては、調査書及び志願者本人が記載する書類等を活用します。
4　社会人選抜では、専攻試験（実技試験、小論文、口述試験等）を課し、大学での学習に必要な知識、技能、思考力及び主体性などを測り評価します。本区分では、専攻実技の習熟度及び小論文・口述試験の内容を重視して評価します。

音楽表現専攻

感性を磨き、
自由に音楽を表現しよう。

大学Webサイト

●声楽コース　●ピアノコース　●弦楽コース
●管打楽コース　●作曲理論コース

■教育課程の概要

音楽表現専攻は、声楽、ピアノ、弦楽、管打楽、作曲理論の5つのコースで構成され、それぞれの専門分野をはじめ、小規模校ならではの特長を活かした、きめ細かい指導を行っています。
大学での学びは自主性が大切です。それぞれの専門分野はもちろんのこと、自分が興味を持てるものに積極的に取り組んでほしいと思います。
自身の可能性を信じる皆さんとの出会いを待っています。

専任教員 | 声楽コース

山下　牧子	教授	（メゾ・ソプラノ）
山内　昌也	准教授	（テノール）
松田　奈緒美	准教授	（ソプラノ）
藤村　瑛亮	助手	（ピアノ）

専任教員 | ピアノコース

小杉　裕一	教授
小沢　麻由子	教授
大城　英明	准教授

専任教員 | 弦楽コース

岡田　光樹	教授
林　裕	教授

専任教員 | 管打楽コース

阿部　雅人	教授	（ホルン）
澤村　康恵	教授	（クラリネット）
倉橋　健	教授	（トランペット）
屋比久　理夏	准教授	（打楽器）
江戸　聖一郎	講師	（フルート）
小野　瑞姫	助手	（ホルン）

専任教員 | 作曲理論コース

塚本　一実	教授
土井　智恵子	准教授

教員からのメッセージ

小杉　裕一 教授

音楽と自分自身に向き合おう！

音楽表現専攻は、声楽、ピアノ、弦楽、管打楽、作曲理論の5つのコースで構成され、それぞれの専門分野をはじめ、小規模校ならではの特性を活かして、実践を重視したきめ細やかな指導を行っており、世界に誇る先生方が皆さんをお待ちしています。沖縄の地で奏で、創作される音楽はまた格別な色合いとなることでしょう。
自分自身の音楽を、我々と一緒に探してみませんか。

声楽コース

■求める人物像

音楽に興味を持ち、歌が好きで、音楽の総合的な研究を通して自らの世界を見つけたいと思っている人を求めています。

■カリキュラムの特徴

声楽家や音楽教育者として活躍し得る人材育成を目標としています。独唱、合唱、重唱、オペラなどの授業を通して、声楽技術の習得と感性を養う指導を行い、それと合わせて音声生理学・舞台語発音演習・和声・音楽史等の授業で、知識と理解を深めるカリキュラムとなっています。

学内演奏会（オペラ総合実習・4年次）

学内演奏会（オペラ総合実習・3年次）

洋楽定期公演（合唱）

声楽レッスン風景

■声楽コースの必修科目

- 声楽実技
- オペラ総合実習
- 舞台表現演習
- ソルフェージュ
- 副科ピアノ
- 合唱
- 重唱
- 音楽基礎演習
- 和声
- 西洋音楽通史

主な選択科目

- 声楽アンサンブル基礎
- 舞台語発音演習
- 音声生理学
- 声楽史

柴田　真歩
（しばた まほ）

（岩手県出身）
声楽コース4年

本学は、美しい自然と特有の文化に恵まれた環境です。ゆっくりとした時間が流れていますが、学内ではそれぞれが目標に向かって4年間があっという間にすぎていきます。声楽コースは声楽実技やオペラ総合演習など充実したカリキュラムのもと、技術だけでなく多方面から声楽の学びを深めることができます。少人数制のため、1人1人が先生方と密着したご指導が受けられるところや多くの舞台を経験することができるというところが強みです。さらに上を目指したい、新しいことに挑戦したい、そんな想いを尊重し先生方も全面的に応援してくれる環境です。声楽コースだけでなく、他コースとも協力し演奏会をすることもあり多くの刺激をもらいました。「自ら考え行動する」4年間、様々な困難に直面しましたが、じっくりと自分と向き合えた時間でした。

ピアノコース

■求める人物像

ピアノ音楽に興味と探究心を持ち、音楽をこよなく愛する人を求めています。独奏だけではなく伴奏やアンサンブルを通じて、普遍的・人間的な幅を広げたいという意欲を持っている人を求めています。

■カリキュラムの特徴

専門実技を軸に、４年間を通して段階的に独奏及びアンサンブルの演奏能力を高めるとともに音楽理論や音楽史等で学んだ知識を踏まえ、適切な演奏法を習得します。地域社会との連携を含む学内外での多くの演奏実践を通して社会性を培い、音楽の普遍的な魅力を次世代に伝えられる豊かな感性を備えた人材育成を目指します。

学内演奏会（ピアノソロ）

ピアノ実技

ピアノ構造学

学内演奏会（重奏）

室内楽

新城　一大
（しんじょう　いつと）

（沖縄県出身）
ピアノコース４年生

本学で学び始めて、４年目になります。ピアノコースが置かれている当蔵キャンパスは、生活面において利便性の高い都市部に位置している一方で、構内とその周辺の自然が豊かなので毎日フレッシュな気分で勉学に励むことができます。
本学のピアノコースは、ピアノソロを中心として声楽や器楽の伴奏を学ぶ授業、異種楽器との室内楽や2台ピアノなどカリキュラムが豊富ですので、演奏の経験を沢山積むことができ、私自身学んできたレパートリーの幅は広く、実り多い4年間となりました。
ピアノソロでは、ピアニストとして現役で活躍されている先生方が、個々の学生に寄り添った手厚く高度なご指導をしてくださいます。
皆さんも、緑豊かな自然の中で、充実した学習環境のもと、さらなるステップアップを目指しませんか。

■ピアノコースの必修科目

- ピアノ実技
- ピアノ重奏
- 伴奏法
- 音楽基礎演習
- ソルフェージュ
- 和声
- 西洋音楽通史
- 鍵盤音楽史
- ピアノ構造学
- 副科声楽

主な選択科目

- 室内楽
- 対位法
- 演奏解釈論
- ピアノ指導法

弦楽コース

■求める人物像

弦楽器を通して音楽を探求し、広く芸術分野で自己を表現したいと考える人を求めています。

■カリキュラムの特徴

古典から現代に至るさまざまな作品を課題として、弦楽器の独奏と合奏（アンサンブル）を学習します。専門実技（独奏）を中心に、室内楽、弦楽合奏及びオーケストラといったアンサンブルの実践的学習を通して、演奏技術や表現について体系的に学習するとともに、学生の関心に応じた科目設定ができます。

学内演奏会後に

室内楽定期演奏会

学内演奏会

弦楽合奏学内演奏会

■弦楽コースの必修科目

- 弦楽実技
- 弦楽合奏
- 音楽基礎演習
- 和声
- 西洋音楽通史
- 弦楽アンサンブル基礎
- オーケストラ
- ソルフェージュ
- 副科声楽
- 副科ピアノ

主な選択科目

- 室内楽
- 楽曲分析
- 管弦楽史
- 管弦楽法概論

島田　聖生
（しまだ みき）

（沖縄県出身）
弦楽コース４年生

私が所属する弦楽コースは少人数ですが、その分演奏する機会が多いなど様々な良いチャンスに恵まれています。私は、オーケストラの演奏会でコンサートマスターを経験させていただけたことや、演奏員の先生方と室内楽を組めるという環境がとても貴重な学びの機会であったと感じています。先生方は学生一人一人に向き合い親身になって、それぞれの段階や学習スタイルに応じた指導をしてくださいます。また、本学は専攻やコースを越えて同級生や先輩・後輩の仲が良いことも、私が学生生活を楽しめている理由の一つです。
この４年間でソロや室内楽、オーケストラを通して演奏技術やアンサンブル能力が身についたことはもちろんですが、学生生活での様々な経験を通して演奏家として、また一人の人間としても成長できたと感じています。

管打楽コース

■求める人物像

それぞれの専門楽器の演奏向上に努め、広く芸術分野で活躍できる人を求めています。また、音楽を通して豊かな人間性、社会性を身に付けたいという意欲のある人を求めています。

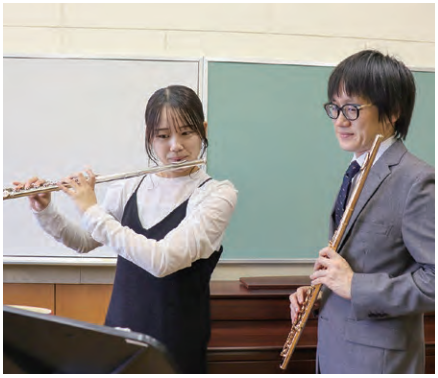
■カリキュラムの特徴

管打楽コースは木管楽器、金管楽器、打楽器に大別されます。楽器種ごとに経験豊かな教員が段階的にきめ細かい指導を行うことにより、高度な技術と豊かな音楽性を持った音楽家・指導者の育成を目指します。室内楽・管打合奏ではアンサンブルの技術だけではなく、協調性や社会性を養います。1年次から4年次までソロやオーケストラなど、数多くの演奏会に出演することで多くのことを学修することができます。

管打合奏（学内演奏会2024）

室内楽定期演奏会

室内楽定期演奏会



管打楽実技

宮迫　希
（みやさこ のぞみ）

（山口県出身）
管打楽コース4年

管打楽コースでは、ソロはもちろん、オーケストラをはじめ、吹奏楽、室内楽など様々な分野の演奏経験を積むことができます。また他大学と違い少人数の大学の為、学部1年生から多くの本番を経験できるのも本学の大きな魅力であると感じています。自主企画の演奏会も多く、これまで同じ楽器の専攻生による演奏会や、木管楽器の学生が有志で行う木管アンサンブルの演奏会などに取り組んできました。4年間の演奏機会を通して、楽器の演奏技術は勿論、アンサンブル能力や表現方法を習得することができました。
一人一人を大切に思ってくださる先生方から音楽を学べる環境は私にとってとても大切な時間です。4年間、豊かな自然に囲まれながら過ごす大学生活はかけがえのない経験になりました。

■管打楽コースの必修科目

- 管打楽実技
- 管打合奏
- 音楽基礎演習
- ソルフェージュ
- 和声
- 西洋音楽通史
- 副科ピアノ
- 副科声楽

主な選択科目

- 室内楽
- 管弦楽史
- 管弦楽法概論
- 演奏解釈論
- オーケストラ

作曲理論コース

■求める人物像

古典から現代にいたる作曲作品を研究・分析し、創造的な音楽作品を生む能力を獲得することに意欲と情熱をもって取り組める人材を求めています。

■カリキュラムの特徴

作曲理論の基礎的な能力を身に着け、近・現代にいたる楽曲の研究を通して、作曲作品を制作することを目標としています。１年次の独奏楽器とピアノによる二重奏から、自由なアンサンブルによる４年次卒業作品まで、学年が進むにつれて様々な編成での創作を経験できるようにカリキュラムが組まれており、各年次に作品を提出し、作品を発表する機会が与えられています。

2023年試演会

試演会打ち合わせ

試演会ステマネ

試演会本番

■作曲理論コースの必修科目

- 作曲実技
- 作曲演習
- 西洋音楽通史
- 音楽基礎演習
- ソルフェージュ
- 副科声楽
- 楽曲分析
- 鍵盤楽器実技
- 副科ピアノ
- 対位法

主な選択科目

- 管弦楽法概論
- 管弦楽史
- 鍵盤音楽史
- 声楽史

加藤　祐奈
（かとう　ゆうな）

（京都府出身）
音楽芸術研究科
音楽学専攻作曲専修
２年

作曲理論コース、作曲専修では、年に１度大学のホールで自分の作品を試演してもらえる機会があります。自分で演奏者を集めるため、演奏者目線でのアドバイスや、楽器特有の注意に関してなど、気軽に聴くことができ、知識を深めながら、より良い作品を作るきっかけが沢山あります。
他にも各コースに定期演奏会があり、大学内の奏楽堂ホールで演奏会を行なっており、本大学の関係者は誰でも聴きに行けることができます。ソロから室内楽、オーケストラや琉球古典芸能まで多種多様な演奏会が行われています。そこで、知らない音楽、文化に触れ、たくさんの刺激を受けることができ、時には作曲のアイデアを見つけることもできます。
本学で同年代の芸術家や、先生、文化から刺激を受け、新しく目にするものにワクワクしながら、大学生活を一緒に楽しみましょう！

音楽文化専攻

音楽を深く知って、
社会とつながる

●沖縄文化コース　●音楽学コース

大学Webサイト

沖縄文化コース

■求める人物像

古典から現代に至る沖縄の音楽・芸能と文化について広い関心と問題意識を持ち、沖縄の音楽文化振興への貢献を目指したい人を求めています。

■カリキュラムの特徴

１年次では、沖縄の音楽文化に関する基礎知識や研究方法を学びます。学年が進むにつれ、舞台企画・制作についての専門的な講義、演習、また音楽関連施設等での実習を通してアートマネジメントの知識や経験を蓄積し、４年次には卒業制作または卒業論文を作成します。

専任教員 ｜ 沖縄文化コース

谷本　裕　教授　（アートマネジメント・文化政策）
呉屋　淳子　准教授（文化人類学）
遠藤　美奈　准教授（民族音楽学・沖縄芸能研究）
神谷　武史　講師　（アートマネジメント・文化政策）

音楽学コース

■求める人物像

ある程度の音楽的実践能力を背景に、さまざまな音楽や芸能とその文化的脈絡について広い関心と問題意識を持ち、深く考える能力を備えた人を求めています。

■カリキュラムの特徴

１年次では、音楽学の基礎知識や研究方法を学びます。学年が進むにつれ、資料批判や音楽理論、フィールドワークなどの専門的な講義、演習、また論文指導などの実習を通して音楽や芸能に関する知識や経験を蓄積し、４年次には卒業論文を作成します。

専任教員 ｜ 音楽学コース

小西　潤子　教授　（民族音楽学）
高瀬　澄子　教授　（日本音楽史）
倉橋　玲子　准教授（西洋音楽史）
向井　大策　准教授（西洋音楽史）

■教育課程の概要

音楽文化専攻では、沖縄をはじめ日本やアジア、世界中のさまざまな音楽や芸能とその文化的脈絡について学問的に理解し、自らのことばで的確に表現する力を身につけます。講義、実技科目によって音楽文化に関する歴史や理論、実践を幅広く学ぶとともに、演習、実習科目によって専門的能力を高め、沖縄県内のみならず国内外で音楽と社会の架け橋となる人材の育成を目指します。卒業後は、アートマネジメントのエキスパート、教員、地域の指導者、音楽関連および一般企業への就職、大学院への進学等、幅広い進路が選択可能です。

教員からのメッセージ

谷本　裕 教授

音楽は多くの人々にとって、聴いて楽しむ対象でしょう。でも或る人にとっては、それをはぐくんだ文化理解を含む学びの対象であり、別の人にとっては人々と繋がる大切なツールかもしれません。沖縄には内外交流で培われた独自文化があり、今日もなお本土とは異なる風土があります。本専攻で多様な音楽文化に親しみ、幅広い視野を培い、音楽を通して自分は何ができるか、社会でどんな役割を果たせるのか。じっくり考えてみませんか。

■沖縄文化コースの必修科目

- 音楽文化入門
- 英語文献購読
- 琉球芸能史
- 琉球音楽論
- 琉球芸能論
- 舞台制作論A・B
- 舞台制作演習Ⅰ・Ⅱ
- 音楽事業演習Ⅰ・Ⅱ
- 音楽文化研究Ⅰ～Ⅲ
- 卒業研究
- 音楽・舞踊実技Ⅰ・Ⅱ
- 音楽基礎演習Ⅰ・Ⅱ
- ソルフェージュⅠ・Ⅱ（文）
- 副科声楽（文）
- 副科ピアノ（文）
- 和声（文）
- 民族音楽学
- 日本音楽史
- 西洋音楽史講義

■音楽学コースの必修科目

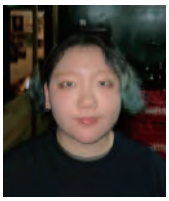
- 音楽文化入門
- 英語文献購読
- 民族音楽学
- 日本音楽史
- 西洋音楽史講義
- 民族音楽学演習
- 日本音楽史演習
- 西洋音楽史演習
- 音楽美学
- 音楽文化研究Ⅰ～Ⅲ
- 卒業研究
- 音楽基礎演習Ⅰ・Ⅱ
- ソルフェージュⅠ・Ⅱ（文）
- 副科声楽Ⅰ・Ⅱ（文）
- 副科ピアノⅠ～Ⅳ（文）
- 和声Ⅰ・Ⅱ（文）
- 楽曲分析Ⅰ・Ⅱ（文）

舞台制作演習（2023年度）音楽絵本「セロ弾きのゴーシュ」

オープンキャンパス（学生交流の様子）

授業風景（英語文献購読）

合同実習での発表



上原　愛姫
（うえはら えひめ）

（沖縄県出身）
沖縄文化コース3年生

私が所属する沖縄文化コースでは、アートマネジメントや沖縄の文化、西洋・日本・沖縄の音楽史を学んでいます。私は、高校の頃から音響や照明、企画制作に興味がありました。現在は大学で学んだ知識を実習授業はもちろん、さらにライブハウスでのアルバイトでアウトプットすることで経験を積んでいます。沖縄文化コースには「舞台制作演習」など、実際に企画制作を行う授業があります。先生方がサポートしてくださるので、失敗を恐れず、楽しく学ぶことが出来ます。
また、音楽文化専攻は西洋と沖縄の音楽文化をバランスよく学ぶことができる分、所属される先生方の分野も様々です。その為、進路も幅広く考えられます。
「沖縄の文化や音楽について学びたい」、「制作や企画をしてみたい」と思う方、ぜひ沖縄文化コースで一緒に学んでみませんか？

石川　葉菜
（いしかわはな）

（石川県出身）
音楽学コース３年生

沖縄での生活は、私の出身地から遠く離れていることもあり、気候や文化など、すべてが新鮮に感じられます。大学では、沖縄出身の学生だけでなく、日本各地から集まった同じ志を持つ仲間たちと出会うことができます。
授業は少人数制を活かし、先生方や他の学生と意見を交わしながら学びを深める、双方向的な学びの場が特徴です。
私は課外活動として、キャンパス内で活動しているインドネシアのバリ島のガムランサークルに参加しています。このサークルでは、ガムラン演奏を学ぶだけでなく、異文化理解の姿勢についても考える機会があり、非常に充実した時間を過ごしています。
大学生活には幾度か挑戦もありますが、それ以上に学びと成長の場が多くあります。自分の可能性を広げるために、ぜひいろんなことに挑戦してください。応援しています。

琉球芸能専攻

世界でただ一つ、
本学だけの教育研究分野

大学Webサイト

●琉球古典音楽コース　●琉球舞踊組踊コース

第35回琉球芸能定期公演集合

組踊「女物狂」

舞踊「御代治口説」

独唱

舞踊地謡

■教育課程の概要

沖縄の伝統音楽・芸能を教育研究の対象とした琉球芸能専攻では、琉球古典音楽コースと琉球舞踊組踊コースがあります。専門実技の研究だけではなく、理論的な研究も行い、実習・実演を行なっています。習得した技能は、琉球芸能定期公演や学内演奏会、学外での出演など様々な場所で発揮することができます。学生たちは4年間の学生生活を経て、更なる研究のため大学院へ進学する者、プロとして実演家になる者、中学・高校の教員、一般企業に勤務するなど様々な分野で活躍しています。

琉球古典音楽コース

■求める人物像

沖縄の伝統音楽に興味があり、その音楽の実技と理論を探求したいという情熱と意欲を持つ人材を求めています。

■カリキュラムの特徴

琉球古典音楽実技、地謡実技などの授業を通して専門実技を学びます。4年間で琉球古典音楽独唱、琉球舞踊や組踊の地謡など幅広い技能を身につけ、琉球古典音楽の真髄に迫ります。併せて実技や理論、歴史を含めた日本・東洋・西洋音楽の技能や知識も習得し、格式高い琉球古典音楽のを発信できる人材を育成します。

専任教員 | 琉球古典音楽コース

仲嶺　伸吾　教授　（琉球古典音楽 安冨祖流）
山内　昌也　教授　（琉球古典音楽 野村琉・湛水流）
新垣　俊道　准教授（琉球古典音楽 野村琉）
豊里　美保　助手　（琉球古典音楽）

琉球舞踊組踊コース

■求める人物像

沖縄の伝統芸能に興味があり、琉球舞踊と組踊の実技と理論を探求し、琉球芸能に於ける視野を広げ、表現力を深めたいという情熱と意欲を持つ人材を求めています。

■カリキュラムの特徴

琉球舞踊と組踊を実技と理論から段階的および専門的に学びます。比較舞踊実技（能・日本舞踊・八重山舞踊・バリ舞踊）、空手・古武道実技などの関連科目や楽劇鑑賞、フィールドワークなどによって幅広く琉球芸能を学びつつ、格式高い琉球芸能を発信できる人材を育成します。

専任教員 | 琉球舞踊組踊コース

比嘉　いずみ　教授　（琉球舞踊）
阿嘉　修　准教授（組踊）
嘉数　道彦　准教授（琉球舞踊・組踊）

■琉球古典音楽コースの必修科目

- 琉球古典音楽実技Ⅰ～Ⅷ
- 総合実習Ⅰ～Ⅳ
- 琉球楽器実技Ⅰ・Ⅱ
- 地謡実技Ⅰ・Ⅱ
- 日本・東洋音楽史
- 琉球芸能史
- 琉球音楽論
- 詞章研究Ⅰ～Ⅲ
- 琉球語
- ソルフェージュ（琉）
- 副科ピアノ（琉）
- 副科声楽（琉）
- 西洋音楽理論

主な選択科目

- 関連琉舞組踊実技
- 和楽器実技（長唄・生田流箏曲）
- 学外研究
- 音楽創作演習

授業風景「琉球古典音楽実技（歌三線）」

授業風景「琉球楽器実技（太鼓）」

■琉球舞踊組踊コースの必修科目

- 琉球舞踊実技Ⅰ～Ⅷ
- 組踊実技Ⅰ～Ⅷ
- 総合実習Ⅰ～Ⅳ
- 扮装実習Ⅰ・Ⅱ
- 地謡実技Ⅰ・Ⅱ
- 日本・東洋音楽史
- 琉球芸能史
- 琉球音楽論
- 琉球芸能論
- 詞章研究Ⅰ～Ⅲ
- 琉球語
- ソルフェージュ（琉）
- 副科ピアノ（琉）
- 副科声楽（琉）
- 西洋音楽理論

主な選択科目

- 舞踊創作演習
- 比較舞踊実技
- 空手・古武道実技
- 舞踊基礎演習
- 舞踊理論
- 楽劇理論
- 学外研究

授業風景「組踊実技」

授業風景「琉球舞踊実技」

教員からのメッセージ

新垣　俊道 准教授

琉球芸能専攻では、琉球古典音楽・琉球舞踊・組踊の実技を専門的に学び、舞台実践を通して実演家、表現者としての素養を身につけます。また、琉球芸能を多角的な視点から捉え、先人達が築き上げてきた個性の美と普遍的な美を追究します。まさに「世界で一つ、本学だけの教育研究分野」です。学生たちは、首里城の麓で琉球の香りを感じながら充実した日々を送っています。琉球芸能をこよなく愛する皆さん、共に学び合いませんか！

中村　優希
（なかむら　ゆうき）

（沖縄県出身）
琉球古典音楽専修２年

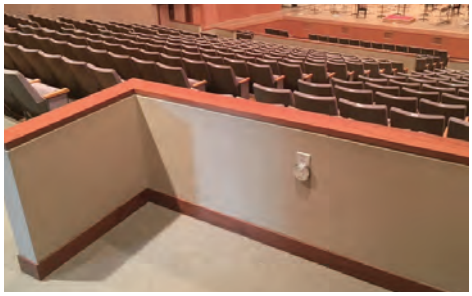
私は他大学を卒業後、会社に勤めていましたが、もっと自分の演奏の幅を広げたいと思い大学院への進学を決めました。長期履修制度を使い、仕事と両立しながら通学しています。芸大は学内外ともに多くの演奏機会に恵まれており、経験を積むことができます。座学の授業では、琉歌の意味を掘り下げる詞章研究や、琉球古典音楽の構造を分析する琉球音楽論など、演奏技術以外の知識を多く得ることができ、充実しています。また、西洋音楽や東アジアの文化、アートマネジメントなど文化・芸術に関する様々な分野を専門とする先生方がいらっしゃるため、他分野の観点から琉球芸能について考える機会も多く、視野を広げることができます。学生の挑戦を後押ししてくれる雰囲気があり、大学の資源を活用してやりたいことを思いっきり試せるのも芸大の魅力です。

奏楽堂　自己を見つめ技術を越えて　新たな表現を切り拓く場

奏楽堂は、390席を有するホールを中心として、講義室、合奏室等を備えており、入学式や卒業式等の式典行事の他、音楽実技の総合的実習や美術工芸学部における映像を利用した教育研究成果の発表など、学生が充実して実践を行えるカリキュラム提供の場です。
外観は、屋根を可能な限り小ブロックに分けることによって、大きな単一面を避け、視覚的にも建物を大きく見せない工夫がなされています。ホール内部は、コンサートを主目的としながらも伝統芸能における舞台制作も行えるようそれぞれの使用目的に対応しています。舞台の開口部の必要な高さを一定の範囲で調整可能な方式とし、同様に残響においても、壁面の残響可変装置により目的にあわせて残響を 1.4 ～ 1.8 秒に調整することができます。また講義室や合奏室等もそれぞれ遮音構造となっており、レッスンや講義に適した施設です。

奏楽堂外観

ホール客席


車椅子専用スペース

定期公演

琉球芸能　洋楽

第35回　琉球芸能定期公演
2024年10月12日　国立劇場おきなわ　大劇場

毎年開催されている定期公演です。
琉球芸能定期公演は、2024年度「琉球芸能専攻」に改称して20周年を迎え、また国立劇場おきなわ開館20周年にあわせて国立劇場おきなわ大劇場にて開催いたしました。教員と学生が総出演し、琉球古典音楽斉唱・独唱、琉球舞踊、組踊を上演しました。古典音楽斉唱においては、人間国宝で本学の元教授でおられる大湾清之先生復元曲による『屋嘉比工工四』より「コハデサアブシ」を演奏し、琉球舞踊では、佐藤太圭子名誉教授および現職教員、卒業生たちが創作した作品を上演し、開学当初からの歴史を辿ることができました。

第35回　洋楽定期公演・第30回オーケストラ定期演奏会（特別演奏会）
2025年1月12日　那覇文化劇場なはーと　大劇場

今年度は、第30回オーケストラ定期公演と第35回洋楽定期公演（声楽コース主催）を合同開催とし、特別演奏会として那覇文化芸術劇場なはーと大劇場にて盛大に行われました。２つの協奏曲作品（サックス・ピアノ）と、一般の方も参加した大規模な合唱を含むオルフの「カルミナ・ブラーナ」を演奏しました。

音楽学部の地域貢献

第５回アートフェスティバル 展示即売会&演奏会

期間：2024年9月4日～9月8日
場所：パレット久茂地６階催事場
主催：デパートリウボウ、
　　沖縄県立芸術大学

美術工芸学部の作品即売会及び音楽学部の演奏会をパレット久茂地6階催事場で開催しました。期間中３回の演奏会に、フルート、声楽、声楽・ピアノ・三線アンサンブルでチームを編成し多くの来場者にご鑑賞頂きました。

第９回 ぬちぬぐすーじさびら コンサートin摩文仁

期間：2024年6月15日
場所：沖縄平和祈念堂
共催：沖縄県立芸術大学、
　　公益財団法人沖縄協会

慰霊の日の前週、糸満市の平和祈念堂にて開催されました。音楽表現専攻の学生・教員が平和への祈りを込め、モーツァルト作曲《レクイエム》等を演奏し、会場はオーケストラと合唱の荘厳な響きに包まれました。多くの県民の皆様にご来場いただきました。

おきげい県庁ロビーコンサート

期間：2024年4月～2025年2月（計6回）
場所：沖縄県庁ロビー
主催：沖縄県立芸術大学

4月から2月の間、偶数月の第４火曜日に沖縄県庁1階ロビーの県民ホールで、声楽、管打楽などによるランチコンサートを実施しました。県庁職員並びに来庁者など多くの方々にご鑑賞いただきました。音楽による癒しの空間を提供しました。

おきげい出前コンサート 芭蕉布展「琉球芸能公演」

期日：2024年11月30日
場所：沖縄県立博物館・美術館
共催：沖縄県立博物館・美術館/沖縄県立
　　芸術大学音楽学部

本学と包括連携を結ぶ（一社）沖縄美ら島財団との共催で、同館会期中の「芭蕉布展」において琉球舞踊を披露しました。芭蕉に関連ある舞踊や解説で来場者は大変喜んでいました。

アーティスト・イン・デジレンス 2024

期間：2024年9月20日～9月23日
場所：沖縄県立芸術大学奏楽堂
主催：音楽学部声楽コース

姉妹校のモンテヴェルディ音楽院（イタリア・ボルツァーノ）から、カペーチェ教授とソプラノ歌手の亀川敬子氏をお迎えして、本学学生及び高校生代表を含む計10名を指導していただき、また両氏によるコンサートも開催し、多くの皆様にご来場いただきました。

おきげい出前コンサート （海洋博公園）ガムラン公演

期日：2024年12月22日
場所：海洋博公園内　海洋文化館
主催：海洋博公園管理センター
協力：沖縄県立芸術大学

海洋博公園内の海洋文化館において本学のガムランサークル「クンバンマス」によるガムラン公演が開催されました。
施設の展示内容とも融合し、解説を交えた実演により約300人の来場者を魅了しました。

全学教育センター

本学の教養教育と資格課程教育は「全学教育センター」が運営しています。全学教育センターは、美術工芸学部・音楽学部・芸術文化研究所の教員によって構成され、学部の垣根を越えた全学教育を推進します。

全学教育科目

本学における全学教育科目は、将来、専門教育の成果を社会で充分に活かせるよう、社会性と豊かな人間性を兼ね備えた、文化的素養と国際感覚のある人材の育成を目指します。
全学教育科目は、以下の6つの区分から成っています。

全学教育科目

初年次科目		初年次セミナー
リテラシー科目	日本語	国語表現法
	情報	コンピュータ情報論
	外国語	英語Ⅰ・Ⅱ 英語講読A・B 英文法 英作文 英語特演Ⅰ・Ⅱ 独語Ⅰ～Ⅳ 独語特演A・B 仏語Ⅰ～Ⅳ 仏語特演A・B 伊語Ⅰ～Ⅳ 伊語特演A・B 中国語Ⅰ～Ⅳ 中国語特演A・B 日本語初級Ⅰ・Ⅱ 日本語中級Ⅰ・Ⅱ 日本語上級Ⅰ・Ⅱ 日本語特演
一般教養科目	人文科学系	哲学A・B 宗教学 言語学A・B 文学概論 中国文学 日本文学
	社会科学系	考古学 歴史学A・B 日本国憲法 文化人類学 心理学
	自然科学系	数学 化学 生物多様性学 基礎生物学 生命科学 自然科学概論 物理学
芸術教養科目		美学 現代芸術概論 美術史 民族音楽学概論 音楽史 ポピュラー音楽論 演劇概論 アートマネジメント概論 芸術とキャリアデザインA・B キャリアデザイン基礎 (R7年度以降入学生対象) 芸術とキャリアデザイン (R7年度以降入学生対象) 芸術と風土 芸術と科学 言語と文化 芸術と心の臨床
沖縄の文化に関する科目		琉球文学 琉球沖縄史A・B 民俗学 自然環境論 沖縄学 沖縄美術工芸史 琉球芸能文化論 琉球語基礎
健康・運動科目		健康・運動理論 健康・運動実技A・B
特別科目		SDGsと沖縄の未来探求

【初年次科目】

初年次科目は、全ての新入生を対象（必修）とし、高校から大学への移行を円滑に促すため、大学における学修や生活に必要な技能や知識、態度や心構えを身につける目的で開設されます。

【リテラシー科目】

リテラシー科目は、言語コミュニケーション能力や情報コミュニケーション能力の養成を目的として開設され、学修活動の基礎となる自己表現力を磨く科目です。

【一般教養科目】

一般教養科目は、人文科学、社会科学、自然科学の3分野で構成されており、教養の基礎を学ぶための科目が広く置かれています。

【芸術教養科目】

芸術教養科目は、広範な芸術に関する教養を身につけるために開設され、専門以外の芸術諸領域についても学べるようになっています。

【沖縄の文化に関する科目】

沖縄の文化に関する科目は、沖縄文化に関する広範な教養を身につけるために開設し、沖縄の歴史、文化、芸術などの諸領域について深く学べるようになっています。

【健康・運動科目】

健康・運動科目は、理論と実技を通して健康に関する正しい知識と態度を身につけ、生涯にわたって健康で豊かな生活をつくり上げていくための基本的な姿勢を培うことを目的としています。

【特別科目】

特別科目は、上記6区分に区分されない科目のために開設される科目となっています。

全学教育センターの地域貢献「おきげい教養講座」

本学において教養教育や資格課程を担当する教員が、日頃の教育・研究を広く公開することを目的として、2016年度より開講しています。2016～2024年度に36回の講座を実施しました。

（2024 年度開設講座例）
●『海のシルクロードと琉球王国』
森 達也（博物館学・考古学）
●『沖縄県立高等学校生徒の自死事案に関する第三者調査委員会報告書（概要版）を読む』芳澤 拓也（教育学）
●『沖縄の海中ごみ及び海岸漂着ごみの生態系への影響』
藤田喜久（海洋生物学）

専任教員｜全学教育科目担当

波平　八郎　教授　（日本文学）
髙良　則子　教授　（英語学／英語教育）
張本　文昭　教授　（野外教育学）
藤田　喜久　教授　（海洋生物学）
山田　浩世　准教授（歴史学）

資格課程

教育職員免許状取得希望者は、本学を卒業するために必要な単位を修得し、かつ免許教科の種類に応じ、所定の単位を履修すれば美術、工芸、音楽などの教育職員免許状を取得できます。また、同様に博物館学課程の所定の単位を履修すれば、博物館学芸員の資格を取得することができます。

【教職課程】

本学教職課程では、①地域の独自性と得意分野を持つ教員、②国語力・書く力を持つ教員、③教育相談能力を持つ教員の三つの力を持つようなバランスのとれた教員の育成を目指しています。

本学で取得できる教員免許状は、まず、美術工芸学部では中学校教諭１種免許状（美術）、高等学校教諭１種免許状（美術）です。また、工芸専攻では前記の二つの免許状に加え高等学校１種免許状（工芸）を取得できます。次に、音楽学部では中学校教諭１種免許状（音楽）、高等学校教諭１種免許状（音楽）を取得することができます。さらに、大学院では、中学校教諭専修免許状（美術、音楽）、高等学校教諭専修免許状（美術、工芸、音楽）を取得することができます※1。中学校教諭免許状を取得すれば小学校の「図画工作」、「音楽」の専科教員になることもできます。現在、本学にて教員免許を取得した多くの卒業生が、本務あるいは非常勤の教員として活躍しています。

教員免許状の授与に至るまでには、卒業に必要とされる科目の他に「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」等の科目を履修しなければなりません。

さらに、中学校の教員免許状を取得するには、「介護等体験」を７日間（社会福祉施設５日間、特別支援学校２日間）行わなければなりません。本来、教職は幅広い教養と教員としての資質や適性はもとより、教育に関する理念、児童・生徒の成長・発達についての理解、教科に関する深い専門知識と豊かな指導力が求められます。また、実際に教員になるためには、公立学校の場合、厳しい教員採用試験に合格しなければなりません。そのため、堅実な動機と周到な履修計画が望まれます。

※1　専攻によって取得できる免許種が異なります。

1．教育の基礎的理解に関する科目等

教職に関する科目については、免許状の種類及び免許教科に応じ、次の通り履修しなければなりません。

授業科目	教職実践演習（中・高） 教育実習（短期） 教育実習（長期） 教育方法（情報通信技術の活用含む） 学校カウンセリング 生徒・進路指導論 特別活動 総合的な学習の時間の指導法 道徳の理論及び指導法 教育課程 特別支援教育 教育心理学 教育行政 教職論 教育原理

美術科教育法Ⅱ

美術科教育法Ⅱ

2．教科及び教科の指導法に関する科目

教科及び教科の指導法に関する科目については、免許状の種類及び免許教科に応じて、次のとおり履修しなければなりません。

（美術工芸学部）

免許状の種類	免許教科	教科及び教科の指導法に関する科目	履修単位
中学校教諭1種免許	美術	**絵画**（映像メディア表現を含む。） **彫刻** **デザイン**（映像メディア表現を含む。） **工芸** **美術理論及び美術史**（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。） **各教科の指導法**（情報通信技術の活用を含む。）	履修単位は規定による
高等学校教諭1種免許	美術	**絵画**（映像メディア表現を含む。） **彫刻** **デザイン**（映像メディア表現を含む。） **美術理論及び美術史**（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。） **各教科の指導法**（情報通信技術の活用を含む。）	
	工芸	**図法及び製図** **デザイン** **工芸制作**（プロダクト制作を含む。） **工芸理論、デザイン理論及び美術史**（鑑賞並びに日本の伝統工芸及びアジアの工芸を含む。） **各教科の指導法**（情報通信技術の活用を含む。）	

（音楽学部）

免許状の種類	免許教科	教科及び教科の指導法に関する科目	履修単位
中学校教諭1種免許	音楽	**ソルフェージュ** **声楽**（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。） **器楽**（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。） **指揮法** **音楽理論・作曲法**（編曲法を含む。）**・音楽史**（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。） **各教科の指導法**（情報通信技術の活用を含む。）	履修単位は規定による
高等学校教諭1種免許	音楽	**ソルフェージュ** **声楽**（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。） **器楽**（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。） **指揮法** **音楽理論・作曲法**（編曲法を含む。）**・音楽史**（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。） **各教科の指導法**（情報通信技術の活用を含む。）	

【博物館学課程】

博物館において、資料の収集・保管・展示・教育普及など専門的な仕事を司る職員を「学芸員」といいます。博物館学課程は、この「学芸員」となる資格を取得するための課程です。

本学では、芸術大学である特性を踏まえ、美術または音楽を専門とする学芸員を育てるカリキュラムを設けています。

今日の博物館は多様化し、実にさまざまな役割を担っています。卒業生は、沖縄県内外の博物館や美術館に学芸員として就職し、芸術と社会の架け橋となって活躍しています。

博物館学課程の授業科目及び履修単位

1　指定教育科目（19 単位）
生涯学習概論 博物館概論 博物館経営論 博物館資料論 博物館資料保存論 博物館展示論 博物館情報・メディア論 博物館教育論 博物館実習
2　関連教育科目
前記 1 の指定教育科目に加え、各学部が所属学生へ提供する関連教育科目 16 単位を履修する必要があります。（詳細は「履修案内」を参照すること）

博物館実習風景

博物館実習風景

専任教員｜資格課程担当

［教職課程］
芳澤　拓也　教授　（教育学）
城間　祥子　准教授（教育心理学）

［博物館学課程］
森　　達也　教授　（博物館学・考古学）

大学院　造形芸術研究科 修士課程

■教育理念

造形芸術研究科は、造形芸術の各分野における高度な専門的能力を養成することを目的としています。その上で、建学の理念に則り、沖縄の伝統芸術の技法的特徴や、それらを生成した歴史的・文化的・風土的特性等にも配慮した高度な実技教育を行うとともに、芸術の普遍性の見地から、ひろく東西の美意識に関わる哲学的・美学的・文化的反省に立つ芸術教育を行います。また、沖縄を中心とした南島文化の多様な実態と伝統芸術文化の特色を解明するために、それらを歴史的・理論的に追究する比較芸術学、民族芸術文化学の観点から、汎アジア的広がりにおける東洋芸術文化の学際的な教育を行います。
これらの教育活動を通じて、芸術文化に対する深い理解と感性をもち、創造力豊かで、将来の社会における造形芸術分野の幅広い実践活動を担う作家や研究者、芸術教育の専門的指導者となり得る人材の育成を図ります。

■ディプロマ・ポリシー

（修了認定・学位授与の方針）
造形芸術研究科では、教育の理念・目的に沿った高度で専門的な教育課程で成果をあげ、修士作品又は修士論文の審査及び口述試験を経て、所定の単位を取得した学生に対し、修士（芸術）の学位を授与します。
その際、学生が獲得しておくべき学修成果は以下のとおりです。

1　幅広い視野にたち専門分野における高度な知識と技術を身につけている。
2　専門分野における高度な研究能力と論理的思考力を身につけている。
3　専門分野における知識・技術を応用し、社会に発信する能力を身につけている。

生活造形専攻

工芸専修

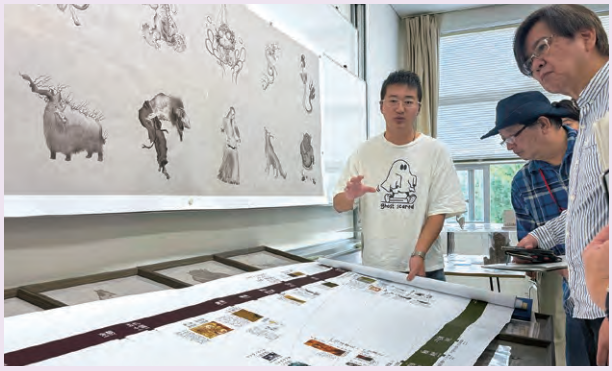
染研究室では、古典紅型を調査研究し、筒引き・型染の表現における形態を学びます。顔料彩色と藍染の表現の違いを学ぶ事で適正材料の知識を得ます。それを基に自己の防染法の表現方法を広げ、現代に即応した創作活動、研究制作を目標とします。
織研究室では、沖縄の染織技法、その他綴れ等の技法を活用した制作、琉球藍などの天然染料や素材の調査研究を行います。また、沖縄を含め日本・アジアの染織に関する調査・研究を行い、伝統的な技術の伝承や創作性への展開にも取り組みます。
陶磁器研究室では、器物作品制作と造形作品制作に分かれ、それぞれの専門的実技と理論を習得します。教育内容としては、１年次には素地土の調整と釉薬原料の研究など成形技術と比較焼成（黒陶・野焼）を含む実習を主眼とし、２年次ではより高度な焼成技術と加飾技法を課題として研究制作を行います。
漆工研究室では、学部での教育課程を土台とし、各自の研究テーマを中心に高度で実践的な研究を行うと共に、琉球漆芸を含む日本漆芸全体の伝統技法の研究もより深く継続していきます。時代や社会をより意識し、独創的な表現を探求しながら、現代社会に貢献できる人材の育成を目標とします。

工芸専修　1年生研究発表会

工芸専修　リウボウアートフェスティバル

デザイン専修

デザイン専修は、視覚伝達デザイン研究室と生活環境デザイン研究室から成ります。
視覚伝達デザイン研究室では、グラフィックデザイン、映像デザイン及び空間演出における視覚的な表現などを研究領域とし、制作を通じてビジュアルコミュニケーションデザインの在り方を追究します。
生活環境デザイン研究室では、公共空間のスペースデザイン、居住空間、家具等のデザインや地域性を勘案した製品デザイン等の造形を研究領域とし、論理的なデザインプロセスの構築手法から実践的でより高度な造形表現を追究します。


デザイン専修　講評会

【教育研究上の目的】

造形芸術研究科は、造形芸術分野における深い学識の涵養及び専門的な能力の教授研究により、社会における芸術活動に貢献し得る卓越した人材を育成し、もって造形芸術の発展に寄与することを目的とする。（大学院学則第５条第１号）

■カリキュラム・ポリシー

（教育課程編成・実施の方針）
造形芸術研究科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得するために、高度で専門的な授業科目を開設し、体系的に編成・実施します。また、修士作品の制作又は修士論文作成のための研究指導を複数教員により組織的に行います。

1　研究実施計画に沿った指導計画に基づく研究指導により、専門分野における高度な技術と理論を身につけ、専門的な課題についての研究能力と問題解決能力を培う。
2　関連科目の履修により幅広い視野にたち深く学識を涵養する。
3　自律的な研究を進めるため、造形芸術における高度な技術及び知識を修得する。
4　専門的知識や技術を社会で応用し、新たな芸術創造と活動に貢献し得る卓越した能力を培う。

■アドミッション・ポリシー

（入学者受入れの方針）
造形芸術研究科では、本研究科の教育理念に基づき次のような点を入学者選抜の判定の主眼としています。

1　幅広い教養と造形芸術分野の専門的素養を備えているか。
2　専門分野の研究を行うのに必要な基礎的能力を備えているか。
3　現代社会において新しい芸術創造の営みを発信していく強い目的意識、意欲を備えているか。

環境造形専攻

絵画専修

絵画専修では、学部での教育課程の学習成果を踏まえ、自己の創出する研究テーマに基づき、より高度で実践的な研究を行い、将来にわたって美術家として主体的に課題テーマを探求し、独創的な美術表現や創作活動、美的価値を創出しうる研究能力の育成を目指します。
油画研究室においては、油画、版表現、平面表現、さらに映像表現、インスタレーションを研究領域とし、日本画研究室においては、伝統的な材料技法に基づく古典から現代を通した高度な修練を現代における自己の表現として確立をめざします。

絵画　授業風景

彫刻専修

彫刻専修では、学部の教育課程において培った教養と彫刻分野の専門的素養の上に立ち、それぞれの領域における学生の研究テーマに基づき、より高度で実践的な研究を行います。その上で、将来にわたって作家などの専門家として自ら主体的に課題を創出し、独創的な表現方法の探求を継続していくための研究能力の育成を目指します。
また、今日の多様な表現領域の中で、特殊な材料・造形技法の分野についても高度な内容の充実を図り、それらを積極的に応用していく能力を養います。

彫刻専修　講評風景

比較芸術学専攻

比較芸術学専修

比較芸術学専修では、日本、琉球、東洋及び西洋の芸術学・芸術史の比較研究を基盤として、古典から現代にわたる歴史的な視点にたち、あわせて国際的にも地域社会に対しても広い視野をもって美術を理論的に把握し、現代の芸術にも建設的な批判精神を養うことを目的としています。
また、沖縄の地域文化の特性と伝統は、日本のみならずアジア各地域の文化と比較しても極めて豊かな内容をもっています。その固有の風土によって培われた芸術文化を民族文化学、アジア工芸史、比較文化学、琉球文化学及び日本文学の立場から研究することを目的としています。

比較芸術学　授業風景

大学院　音楽芸術研究科 修士課程

■教育理念

音楽芸術研究科は、音楽芸術の各分野における高度な専門的能力を養成することを目的としています。その上で、建学の理念に則り、沖縄の伝統芸術の技法的特徴やそれらを生成した歴史的・文化的・風土的特性等にも配慮した高度な実技教育を行うとともに、芸術の普遍性見地から、ひろく東西の美意識に関わる哲学的・美学的・文化的反省に立つ芸術教育を行います。また、沖縄を中心とした南島文化多様な実態と伝統芸術文化の特色を解明するために、それらを歴史的・理論的に追求する音楽構造学および民族音楽等の観点から、汎アジア的広がりにおける東洋芸術文化の学際的な教育を行います。
これらの教育活動を通じて、芸術文化に対する深い理解と感性を持ち、想像力豊かで、将来の社会における音楽芸術分野の幅広い実践活動を担う演奏家や研究者、芸術教育の場における専門的指導者となり得る人材の育成を図ります。

■ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科では、教育の理念に沿った高度な専門教育において成果をあげ、修士演奏、修士作品又は修士論文の提出を経て、所定の修了単位を取得した学生に対し、修士（芸術）の学位を授与します。
その際、学生が獲得しておくべき学修成果は以下のとおりです。

1　専門分野における高度な技術力を身につけている。
2　研究分野における高度な研究能力と論理的思考力を身につけている。
3　研究分野における知識、技術を言語化、理論化し、社会に発信する能力を身につけている。

演奏芸術専攻

声楽専修

声楽専修では、学部で学んだ基礎を活用しながら、より高度な研究を行い、舞台で活躍できる人材を育てることを目的としています。カリキュラムを通し、幅広い学識を深め、自分の声と表現の特質を把握し、レパートリーの確立を目指します。
将来、コンサート歌手としてリサイタルを開催するために必要な演奏技術と音楽表現を学び、またオペラ歌手として一つの役を歌い演ずる歌唱技術と演技力を身につけます。さらに、協奏曲研究にてオーケストラと共演する機会も与えられます。

大学院オペラ

ピアノ専修

ピアノ専修では、より高い次元での演奏を目指して、幅広い視野に立ち自身の研究を追究してゆこうとする人材を求めています。ピアノ研究ではリサイタルを1回以上開催できるレパートリーの拡充を目標とし、協奏曲研究では本学のオーケストラとの共演により、より大きなスケールでの演奏表現を体得し実践します。

ピアノ専修　協奏曲研究

管弦打楽専修

管弦打楽専修では、学士課程において培った専門実技の技術をさらに高め、研鑽を重ねようとする強い意志を持った人材を求めています。管弦打楽研究の個人指導を中心に、オーケストラ、室内楽等、器楽奏者として必要な分野を深く研究します。協奏曲研究ではソリストとして大学のオーケストラと共演します。

管打楽専修

【教育研究上の目的】

音楽芸術研究科は、音楽芸術分野における深い学識と専門的な研究能力を培い、社会において高度に専門的な職業を担うことのできる人材を育成し、もって音楽芸術の発展に寄与することを目的とする。（大学院学則第５条の２号）

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

音楽芸術研究科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、講義、演習、実技を組み合わせた授業科目を開講し、修士演奏・作品（副論文含む）並びに修士論文作成のための研究指導を行います。教育課程については、履修表及びカリキュラムマップにより、体系性や各科目間の関係性を示します。

1　研究計画に基づいた研究指導により、専門分野における精緻な技術を身につけます。また、関連科目の履修によって広い視野に立った学識を涵養します。
2　課題探求や洞察に必要な、論理的思考力やコミュニケーションスキル、情報リテラシーなど、研究に必要な基礎的素養を養います。
3　各専攻分野で獲得した能力を応用し、高度の専門性が求められる各分野の職業を担い得る卓越した能力を培います。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本研究科の教育理念に基づき、次のような点を入学者選抜の判定の主眼としています。

1　幅広い教養と音楽芸術分野の専門的素養を備えているか。
2　専門分野の研究を行うのに必要な基礎的能力を備えているか。
3　現代社会において新しい芸術創造の営みを発信していく強い目的意識、意欲を備えているか。

舞台芸術専攻

琉球古典音楽専修

琉球古典音楽専修では、琉球古典音楽独唱、琉球舞踊組踊地謡を独演できる技量が求められています。
琉球古典音楽研究では、大昔節（茶屋節・昔蝶節・十七八節・長ぢゃんな節・仲節）の演奏表現を研究します。それらを最終的には修士演奏で発表します。また、演奏技術習得だけでなく、理論的にも追究し、副論文の作成にも取り組みます。

琉球古典音楽専修　修士演奏

琉球舞踊組踊専修

琉球舞踊組踊専修では、代表的な古典舞踊や雑踊、組踊の基本的な役柄の演技と唱えを習得していることが求められています。
琉球舞踊研究では、琉球舞踊に関する身体表現を研究し、組踊研究では、諸様式や役柄の心情表現を研究します。
また、舞踊論研究、琉球楽劇論研究などの理論研究を通して古典芸能の理解を深め、創作能力を身につけます。修士演奏では、古典または創作などが課せられ、いずれも内容に即した副論文の作成にも取り組みます。

琉球舞踊組踊専修　修士演奏

音楽学専攻

音楽学専攻

音楽学専修では、音楽や舞踊の学問的研究を通して、社会に資する人材の養成を目的とします。音楽史・民族音楽学・舞踊芸能論の三つの研究領域があり、沖縄をはじめ、世界各地の音楽を対象とします。専門の研究領域だけでなく、隣接する研究領域の知識を身につけ、新たな知見と研究方法を確立し、修士論文を提出します。

音楽学専修　講義（能楽研究）の様子

作曲専修

作曲専修では、学部で培った作曲の基礎的な力を元に研鑽を重ね、独自の創作表現へと広げ高めていく意欲が求められます。作曲演習では、作品分析・研究を通して視野を広げ、作曲実習における実作能力の習熟成果として修士作品を制作し、副論文を提出します。各年次には、提出作品を実音にする試演の機会が与えられます。

作曲専修　試演会リハーサル

大学院

芸術文化学研究科 博士課程

芸術文化学研究科
Webサイト

【教育研究上の目的】

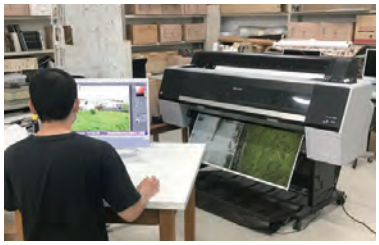
芸術文化学研究科は、実技との結びつきを重視した芸術文化に関する高度な理論と応用の教授研究により、芸術文化についての豊かな識見及び自立して研究活動を行うに必要な高度の能力を有する研究者を養成し、もって芸術文化の発展に寄与することを目的とする。（大学院学則第５条の３号）

■教育理念

芸術文化学研究科は、本学大学院の後期博士課程です。
本学大学院は建学の理念に基づき、伝統芸術・民族芸術の汎アジア的基盤での育成・研究をはかり、美術・音楽・芸能等諸芸術文化の国際的な比較研究の場を展開して、高度な専門知識と能力を有する指導者を育成すると同時に、とりわけ東アジア・東南アジアを結ぶ東アジア太平洋文化圏の伝統芸術の継承と新たな芸術の創造に資する国際的視野での総合的な芸術文化研究機関です。

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

芸術文化学研究科では、研究指導を受け所定の単位を修得し、博士論文等の審査及び試験に合格した学生には、博士課程の修了を認定し、博士（芸術学）の学位を授与します。
比較芸術学研究領域・民族学音楽研究領域における博士論文、芸術表現研究領域における博士論文及び研究作品・研究演奏は、1）その専門分野において高度な研究内容であること、2）創造的、独創的な研究であること、3）その研究が国際的にも貢献できること等の観点から審査します。



■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

芸術文化学研究科のカリキュラムは、芸術文化についての幅広い見識と、自立して研究活動を行うに必要な高度の能力を養うような教育を行います。博士（芸術学）の学位を取得できるよう、博士論文等の完成を目標とした研究指導を中心に据え、実技と理論との結びつきを重視した本学ならではの科目である芸術表現総合比較研究Ⅰを必修とし、その他複数の領域の科目を自由に選択するように授業科目を編成しています。

■アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

1.教育の理念
本学の基本的な理念は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追求することにあります。これに基づき、芸術文化学研究科は、実技との結びつきを重視した芸術文化に関する高度な理論と応用の教授研究により、芸術文化についての豊かな識見及び自立して研究活動を行うに必要な高度の能力を有する研究者を養成し、もって芸術文化の発展に寄与することを目的としています。
2.本研究科の求める人材
芸術に関する基礎的な知識を備え、自立した研究者となるための意欲と能力と展望を備えていることを求めます。
3.入学者選抜の実施
2に掲げる人材を受け入れるため、専門的な学力試験、研究課題に関する口述試験を実施しています。

専攻案内

**本学大学院の芸術文化学研究科（後期博士課程）芸術文化学専攻に比較芸術学と民族音楽学、芸術表現の三つの研究領域が設定してあり、それぞれの領域において専門の研究分野が設置されています。
学生はいずれかの各分野に属して研究指導を受け、必修科目「芸術表現総合比較研究Ⅰ」（2単位）及び選択科目を2科目（8単位）以上履修し、博士論文等（博士論文、研究作品又は研究演奏）の審査に合格すれば修了することになります。**

比較芸術学研究領域

・比較美学・芸術学の分野では、従来における西洋美学への偏重を反省しつつ、多様な美意識を体系的な見地から比較研究することによって、それぞれの特質及び形成原理を解明することを主要な課題としています。とりわけ、芸術体験の価値構造の分析から導かれる諸契機により、東西の美意識を比較類型学的に解明することが目指されます。
・芸術批評史の分野においては、作家による作品の歴史という従来ありがちな美術史学の研究方法の限界を反省しつつ、美術作品を生み出してきた思想的、歴史的な背景を厳密な史料的把握を通じて、いわば精神史としての美術史を人文科学の諸方法を用いて構築することが目指されます。
・民族芸術文化学の分野では、諸民族における芸術と文化の役割について可能な限り実際のフィールドワークや実物資料、原資料に即して実証的研究を行います。例えば諸民族の工芸美術の比較研究、文学の比較研究、琉球の伝統芸能・伝統文化の研究、琉球史と世界各地の歴史との比較研究などを美術史学、歴史学、考古学、文学、文化人類学の諸方法を援用しつつ研究していきます。

民族音楽研究領域

・音楽史の分野では、琉球、日本、東洋及び西洋の音楽について歴史的研究を行います。古文書古楽譜の分析解釈に加えて、今日まで伝承されている音楽を対象とする場合は、その音楽の実践に即した研究方法を探求します。
・民族音楽学の分野では、主に対象の中心を琉球の古典音楽に置き、琉球独自の言語表現による文学とも関わり、その音楽的構造や形態との関連を研究します。あわせて琉球音楽の歴史的形成に寄与した東南アジア諸国の諸民族の音楽を民族音楽学の視点から研究します。
・民族芸能論の分野では、音楽を主体とする諸民族の芸能を音楽学また文化人類学の視点から学術的に研究する分野です。沖縄の伝統的な組踊や琉球舞踊・民俗芸能を中心に、アジアの舞踊・演劇を広く研究対象とします。

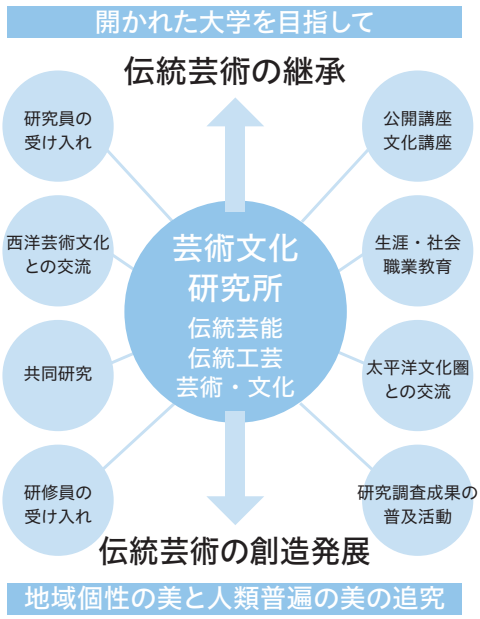
芸術表現研究領域

・造形芸術の分野では、芸術家、研究者、教育者などとして自立した活動が行えるよう、より高度な作品制作能力を培い、それを理論的に支える研究の方法を学びます。また、人間の知的文化的活動の一つとしての造形芸術の意味と役割について、作品制作と研究を通して伝える能力を身につけます。
・音楽芸術の分野では、芸術家、研究者、教育者などとして自立した活動が行えるよう、より高度な舞台表現・作品制作能力を培い、それを理論的に支える研究の方法を学びます。また、社会・環境に根差した表現活動としての音楽芸術の意味と役割について、舞台表現・作品制作と研究の両面から伝える能力を身につけます。

芸術文化研究所（金城キャンパス）

芸術文化研究所は建学の理念等に基づき、地域社会との関連に重点を置いた調査研究活動のほか、一般県民を対象とした講座や移動大学といった地域貢献活動を行っています。講座は学生も受講可能で、沖縄学の講座では単位の取得もできます。

芸術文化研究所設置の理念



●芸術文化研究所の目的

伝統芸術の特色の解明や一般県民への研究成果の普及啓発を通じて、後継者育成を量り、伝統文化の創造と発展に寄与すること

●実施事業

地域の伝統芸術およびその関連分野の調査・研究／伝統芸能の後継者の育成指導に関する技法的研究・調査／文献および資料の収集・活用／研究成果の発表・公開講座の開催／研究会活動／国際交流／その他研究所が必要と認めた事項

専任教員｜芸術文化研究所

久万田	晋	所長・教授	（伝統芸能部門）
鈴木	耕太	准教授	（芸術文化学部門）
新田	摂子	准教授	（伝統工芸部門）

文化講座「琉球・沖縄芸術文化を探求した偉人たち」の動画

移動大学in伊是名島・地域芸能文化交流会の風景

1 移動大学は、小中学生を主な対象として離島地域で開催する事業で、県の離島地域振興計画に位置づけられています。美術工芸、音楽、空手、沖縄文化といった各種プログラムを体験講座として実施しているほか、琉球芸能等の公演、地域との交流を行いました。令和６年度は伊是名村へ赴き、琉球舞踊教室や空手教室などを開講しました。

2 しまくとぅば実践教育プログラム開発事業を行っています。

【過去５年間の実施事業一覧】

令和２年度	移動大学 in 伊平屋島（オンライン開催）、沖縄学「首里城と琉球・沖縄文化」（オンデマンド開催）
令和３年度	移動大学 in 伊平屋島、沖縄学「沖縄芸能のダイナミズム」（オンデマンド開催）、文化講座「腰機入門」
令和４年度	移動大学 in 城辺、沖縄学「現代沖縄諸芸術の変遷」（オンデマンド講座　美ら島おきなわ文化祭連携事業）、文化講座「腰機入門 - 花織編 -」「バリガムラン体験講座」
令和５年度	移動大学 in 久志、沖縄学「琉球・沖縄諸芸術の研究 100 年」（オンデマンド開催）、「紅花染めを学ぶ」
令和６年度	移動大学 in 伊是名島、沖縄学「琉球沖縄芸術文化を探求した偉人たち」（オンデマンド開催）、国際シンポジウム「ヨーロッパに渡った沖縄染織品－J.Langewisコレクションの調査報告－」、文化講座「空手・琉球の武術を学ぶ－研究の視点から－」 ※芸術文化研究所の事業の詳細については、Webサイトをご覧ください。

芸術文化研究所 Webサイト

附属図書・芸術資料館（当蔵キャンパス）

附属図書・芸術資料館　外観

主な施設		
地下２階	収蔵庫（前室含む）	365㎡
	書庫	241㎡
地下１階	荷解室	29㎡
地上１階	閲覧室	358㎡
	簡易書庫	54㎡
	多目的室	90㎡
	ラーニン・グコモンズ	31㎡
地上２階	第１展示室	354㎡
	第２展示室	139㎡
	第３展示室	83㎡

蔵書数（2025年３月31日現在）		
図書 84,361冊	和書	62,127冊
	洋書	19,496冊
	楽譜	2,738冊
雑誌 1,940種	和雑誌	1,812誌
	洋雑誌	128誌
視聴覚資料		8,532点

附属図書・芸術資料館は芸術関係図書資料等を重点的に収集・保存している図書館と、国の重要文化財に指定されている資料を含む「鎌倉芳太郎資料」や、台湾先住民の織布を集めた「岡村吉右衛門資料」、アジアの織物を集めた「柳悦孝コレクション」など貴重な資料が収蔵されている芸術資料館からなる施設です。

図書館　開架閲覧室

図書館には、開架閲覧室、ラーニング・コモンズ、多目的室があり学生の自主的な学習の場として活用されています。図書館ではＯＰＡＣシステムで蔵書検索が行えますので、効率よく図書が見つかります。また、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの利用が可能です。専門スタッフもおりますので、お気軽にお声かけください。

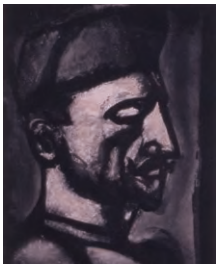
芸術資料館には、３つの展示室があり、館主催の企画展のほか、教員、学生等による企画展や個展などが活発に開催され、芸術表現の場として活用されています。

大学収蔵コレクション

「絹白地松皮菱繋檜扇団扇菊牡丹文様紅型踊衣裳」
城間栄喜　1963 年　絹／紅型／着物

「赤絵鳥紋輪花皿」 作家不明　制作年不明　陶磁器

「東道盆」 金城唯喜　制作年不明　漆／沈金



「ミセレーレ 52 番」ジョルジュ・ルオー
1926 年　版画

主な企画展覧会

2024年度企画展

施設紹介

※（　）は施設のあるキャンパス名です。
※「芸術文化研究所」「附属図書・芸術資料館」は別頁（P45、P46）参照。

管理棟・一般教育棟（当蔵）

事務室のほか、一般教養を学ぶための教室があります。100名ほどが入れる大講義室やコンピュータ教室、ＬＬ教室も備えています。音楽棟とは芝生の中庭を挟んで向かい合っており、ベンチで休んでいる学生も見られます。

音楽棟（当蔵）

首里城と龍潭のすぐそばに建っており、絶景を眺めることもできます。講義室、演習室、練習室、楽器庫のほか洋楽と琉球芸能の大合奏室と小合奏室がそれぞれ２つずつ、琉球舞踊の演習室が１つあります。

福利厚生棟（当蔵）

地下１階地上２階建てになっており、地下は学生食堂、１階のロビーは学生のフリースペースになっているほか、保健室、学生相談室、進路コーナー、国際交流室、留学生のための日本語教室の部屋となっています。２階は博士課程の研究室と学科室、図書室になっています。

奏楽堂（当蔵）

琉球芸能や洋楽、オペラの公演ができるホールのほか、講義室、合奏室、中合奏室、演習室、打楽器室、コントラバス室、録音室を兼ね備えたスタジオがあります。
授業で使用するほか、年間40回以上の公演に使用され、学生の練習場所としても活用されています。また、地域の主要なコンクールの主会場としても使用されています。

体育館（当蔵）

板張りのアリーナとトレーニング用具のあるホールからなる体育館は、健康・運動科目の授業で使用するほか、バドミントン等のサークル活動や学生のレクリエーションの場としても活用されています。運動だけでなく、壁面の大鏡を利用して舞踊の練習の場として使っている学生も多いようです。

美術棟（当蔵）

絵画専攻と芸術学専攻の学生が学ぶ教室があります。入り口を入ると開放的な空間にガラスで囲まれた石膏像資料室があり、大きな石膏像に圧倒されます。実習室、講義室のほか版画工房、写真工房を備えています。

デザイン・中央棟（崎山）

学年毎の実習室のほかプロダクト工房作業室、素材加工室、セラミック室、設計製図室、プリント工房、映像スタジオ、紙漉き工房、腐蝕室、製版室、木工房、金属工房等といった幅広くデザインを学ぶために必要な設備があります。

工芸棟（崎山）

染色実験室や染工房、織工房がある染分野、織分野のスペースと漆芸の実習室、塗部屋、陶芸の実習室、制作室焼成室、石膏室があります。学生は各自、自分に与えられた充分なスペースで個性的な作品を制作しています。

彫刻棟（崎山）

塑造室、石彫実習室、テラコッタ・鋳造室、金属実習室、金属室、木彫室等を備えています。開放的な空間の中、それぞれの作業音が重なり合い、感性豊かな作品が生み出されています。

国際交流

海外姉妹校との交流

■芸術・学術協定締結大学（姉妹校）

本学は国際的視野に立った芸術家・研究者を育成するために、海外の大学と芸術・学術交流協定を結び、学部・大学院の優秀な学生を対象とした交換留学を推進しています。また、姉妹校とは、展覧会や演奏会活動等を含めた研究者間の交流にも積極的に取り組んでいます。

■姉妹校（7か国・地域12校）

福建師範大学（中国）
中国音楽学院（中国）
ミュンヘン造形芸術大学（ドイツ）
ブレーメン国立芸術大学（ドイツ）
クラウディオ・モンテヴェルディ音楽院（イタリア）
ミラノ・ビコッカ大学（イタリア）
チェンマイ大学美術学部（タイ）
国立台北芸術大学（台湾）
国立台湾芸術大学（台湾）
インドネシア国立芸術大学デンパサール校（インドネシア）
ハワイ大学マノア校（アメリカ）
国立成功大学考古学研究所（台湾）

■交換留学

2024年度は、本学の学生をブレーメン国立芸術大学へ1名派遣しました。また、ブレーメン国立芸術大学から2名、ミラノ・ビコッカ大学から2名、国立台湾芸術大学から4名、国立台北芸術大学から1名の留学生が本学で学びました。
姉妹校への交換留学は、短期留学（半年～1年）の選択肢として、学生から高い関心が寄せられています。姉妹校への交換留学の場合、サポート体制が充実していると同時に、通常の私費留学などに比べて、いくつかのアドバンテージがあります。
例えば、留学中は休学ではなく、本学に在籍中とみなされるため、その期間は卒業までに必要な在学期間に算入されます。留学先で取得した単位は本学の単位として認定できる場合もあります。さらに授業料は、本学に納めるだけでよく、相手校への授業料は免除となります。
短期間とはいえ、海外の大学で専門分野の知識を獲得するチャンスになりますし、現地での異文化体験や人的交流は、留学経験者のその後の修学やキャリアに大きなインパクトを与えています。
在学中に積極的に海外からの留学生や留学した先輩と交流を深め、より多くの学生が海外留学へチャレンジすることによって、グローバルに活躍する人材へと成長してくれることを期待しています。

後期受入留学生の学長表敬訪問

■交換留学生の声

美術工芸学部工芸専攻　子安崇文
派遣大学：ブレーメン国立芸術大学
（2024年3月～2025年2月）

大学では、「シルクスクリーン」を学びました。授業や講義はなく、自分の学びたい分野の教室に行き、担当の先生から技法や手順を学ぶというスタイルでした。さらに、アートマーケットへの参加や茶道実演等の活動も行ったり、他の地域や周辺国を訪れ、様々な文化に触れたりもしました。唯一大変だったことは、高熱が続き肺炎になったことでした。しかし、周りの人たちが支えてくれるのは海外も同じで、友人等の助けを借りつつ、困難も乗り切りました。そのような留学生活を経験して、私は新たな価値観やスキルを身につけることができたと思います。

国立台湾芸術大学　Chen-Yu Tien
受入専攻:美術工芸学部彫刻専攻
（2024年10月～2025年3月）

最初は日本語に不安がありましたが、先生やクラスメートがとても親切で、すぐに馴染むことができました。また、沖縄は台湾に似ており、親しみを感じています。特に那覇大綱挽まつりと浦添てだこまつりはとても印象に残っています。
日本のアニメやマンガにとても興味があり、日本語学習に大いに役立っています。空手の授業では細かな動作に達成感を感じ、日本語の授業では日本文化について学びながら、コミュニケーションの機会が増え、金属溶接の授業では台湾とは異なるドイツ式の方法を習い、整った環境で充実した授業、沖縄生活を楽しんでいます。また戻りたいと思っています。

ブレーメン国立芸術大学　Jonathan Lunis Vogt
受入専攻: 美術工芸学部工芸専攻
（2024年10月～2025年3月）

子供の頃から日本文化に魅了され、何か特別で惹きつけられるものを感じていました。料理学校に通っていた時や建築・デザインを学んでいた時も日本の美意識がいつも目を引きました。デザインのシンプルさに心惹かれていることに気づきました。それは、料理や調理道具から建築やデザインに至るまで感じられました。沖縄で暮らしながら陶芸のクラスに通う中で、日本の人々を支える情熱を実感しています。毎日少しずつ日本文化を深く理解できるようになっているのは、先生方やクラスメイトの皆さんのおかげです。本当に心から感謝しています。

国際交流事業等の紹介

■インドネシア国立芸術大学デンパサール校との交流

2024年11月には、インドネシア国立芸術大学デンパサール校（ISI）のProf. Dr. I Wayan Adnyana学長はじめ教職員及び学生、総勢21名をお迎えし、協定の更新および研究所間の新たな覚書締結のための調印式を執り行いました。ISIの皆さんの滞在中には、アニメーションワークショップやケチャワークショップによる交流のほか、沖芸祭２日目の11月３日には、ISIのメンバーと本学のガムランサークル、クンバンマスにより本場バリ島の音楽と舞踊が披露され、一般の来客者を含む多くの観客を魅了しました。今後も、教育、研究そして地域貢献と様々な交流が期待されます。

インドネシア国立芸術大学デンパサール校との調印式

ガムラン演奏会（沖芸祭）

■短期研修プログラムの導入

本学造形芸術研究科と国立台北芸術大学美術学院は、大学院生の研究制作機会の拡大とグローバル人材育成を目的に、2024年６月に短期研修及び滞在制作プログラムの覚書を締結しました。2024年度は、国立台北芸術大学の大学院生３名が制作研究のため、沖縄に1か月間滞在し、本学の教員・学生と交流を深めました。本学造形芸術研究科の学生の台湾での短期研修への参加に期待しています。

■新規学術協定締結大学

本学の芸術文化研究所と台湾の国立成功大学考古学研究所は、2024年12月に学術、教育及び文化交流推進を目的に学術交流協定書を締結しました。

■沖縄県海外移住者子弟等留学生の受入

本学では、1992年から沖縄県の海外移住者の子弟、いわゆる県費留学生を受け入れ、本学の学生や教職員との交流を推進しています。これまでに琉球芸能、工芸、デザイン等の分野に沖縄県出身移住者子弟を迎え入れ、沖縄の歴史・文化・伝統芸能の理解促進の機会を提供してきました。2024年度は前期にボリビアから１名、ペルーから１名（ともに美術工芸学部：工芸分野での研修）、後期にブラジルから１名（美術工芸学部：工芸分野での研修）、オーストラリアから１名（音楽学部：琉球芸能分野での研修）の県費留学生を迎えることができました。本学は、世界中の様々な地域で活躍するウチナーンチュの子弟と芸術活動を通してネットワークを広げていきます。

国際交流室について

本学に設置されている「国際交流室」では、留学の支援を中心に、姉妹校留学プログラムの運営や異文化理解を促進する教育プログラムの開発、教育・学術交流のための国際交流活動の支援などに取り組んでいます。またその活動の拠点となるのが、福利厚生棟1階にある国際交流室です。国際交流室には国際交流コーディネーターが配置され、本学から姉妹校等へ留学する学生の様々な相談に対応しています。

国際交流コーディネーターは、姉妹校への交換留学を希望する学生の情報収集をサポートし、申請時には手続き等へのアドバイスや支援を行います。姉妹校への派遣が決まったら、ガイダンスを実施し安全な渡航のための準備を応援します。また、受入留学生に対しては、留学生オリエンテーションを開催し、履修や学生生活に関する情報を提供することによって、日本での生活に一日でも早く慣れるようサポートをしています。留学先のコーディネーターと連携しながら、本学から派遣される学生や姉妹校から受け入れる留学生が、安心して有意義な留学生活を送れるよう組織的なサポートを展開しています。

また、留学生支援の一環として、チューター制度を設置しています。日本人学生やすでに在籍する留学生がチューターになって、留学生および留学予定者に対し、一定期間、サポートを提供する活動です。学生は、チューター活動を通して留学生と交流することが、留学を考える第一歩となることもあります。

国際交流室では、相互理解を深めるために、留学生との交流を推進しています。異文化交流会や異文化カフェ、留学報告会などの活動を通して、日本人学生と留学生がお互いの文化に関心を寄せ、理解し尊重しあう「多文化キャンパス」を目指しています。

福利厚生棟1階の国際交流室は、留学生や留学・海外に関心のある学生はもちろん、グローバルな芸術活動に関心のある皆さんが自由に立ち寄り交流する空間です。

姉妹校・県費留学生成果発表会

県費留学生と本学学生による合同演奏

第１回異文化交流会（カチャーシー体験）

第２回異文化交流会（カフェ）

卒業後の進路

就職への取り組み

造形芸術及び音楽・芸能の専門教育を行う本学では、21世紀を担う若き表現者を育成することを目指しております。一方、芸術大学ならではの独自性や創造性を企業、学校現場、博物館、美術館等さまざまな場所が求めており、本学で学んだ専門的スキルを余すことなく大いに活かす卒業生も少なくありません。
また、美術、工芸、音楽の教育職員免許状や博物館学芸員の資格も所定の単位を履修すれば取得できますので、多くの卒業生が学校教育の現場や、博物館、美術館などでも活躍しています。
本学では、就職を希望する学生に応えるため、芸術大学としての進路相談や就職ガイダンスの実施、各種セミナーに取り組む他、「自分のキャリア(進路)をデザイン（設計）するにあたって様々な可能性に目を向けると同時に、作家や演奏家としても自立できるような技術や知識を身につけること」をテーマとした講義を開講しています。

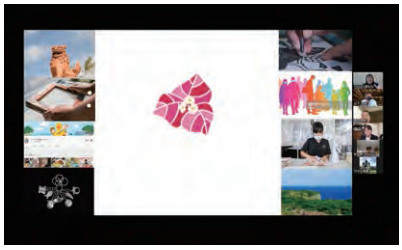
就職支援アドバイザーの取り組み

本学では学生の進路、就職に関する相談については、進路情報コーナーにて、就職支援アドバイザーが対応しています。沖縄の独特の文化と沖縄県立芸術大学ならではの大らかな環境の中で育まれた、芸術に対する真摯な思いと豊かでしなやかな感性や創造性が社会の中でもさらに紡いでいけるよう、一人ひとりが納得度の高いキャリア形成に繋がるようなきめ細かなサポートをしています
また、本学学生の専門性を活かせるクリエイティブな職種・業種を中心として就職先を開拓し、本学学生にとって興味深い企業とのマッチングを図るほか、就職意識を醸成するさまざまな取り組みをオンライン、対面で行うことにより、多くの学生が希望する仕事に就けることを目指しています。

【具体的な取り組み】

○進路・就職相談
　・履歴書やエントリーシートの書き方・添削
　・面接対策
　・自己分析・業界研究・企業研究
　・就職活動に関する疑問や、社会に出る不安解消、望むキャリアの構築などキャリアカウンセリング全般
○自己分析
○求人情報の提供
○各種就職ガイダンス、ワークショップ、セミナー等の実施
○書籍の貸出
○学内合同企業説明会、個別企業説明会の開催
○学外で行われる企業合同説明会や行政の行う大学生向け就職支援事業など、学生にとって活用しがいのある情報の把握、及び情報提供
○県内・県外企業求人開拓
○ポートフォリオの作り方指導

学内合同企業説明会


オンライン合同企業説明会

上記の活動に加えて、キャリア教育教員や外部就職支援機関（ハローワークや県キャリアセンター等）とも連携し、各学生の就活状況の情報共有を図り、共同で支援を行うことにより、多角的な観点から学生支援を行っています。小さい大学ならではの学生一人ひとりへのきめ細かなサポートを実施しております。

卒業生の進路情報（2023年度）

	美術工芸学部	音楽学部	大学院
卒業者数	71	36	42
進学者	12	19	1
就職者（作家・音楽活動含む）	40	8	10
その他	19	9	31

※その他（就職活動、進学準備、留学準備、進路未報告を含む）

主な就職先

美術工芸学部/大学院

絵画専攻

■沖縄県立博物館・美術館 ■南風原文化センター
■足立美術館（学習支援） ■那覇造形美術学院 ■(有)櫻井事務所
■(株)JCC ■(株)楽樹タナストーン ■フリーカメラマン
■沖縄大学非常勤講師 ■沖縄こどもの国ワンダーミュージアム
■アカラギャラリー（ボクネン美術館） ■（株）ムービータイム
■丸正印刷（株） ■（株）ドラックストアモリ ■九州陶器
■（株）モノクラム ■（株）すえぞう ■沖縄アミクス国際学園
■SOLA沖縄学園 ■秋田公立美術大学 ■金沢21世紀美術館
■NHK（日本放送協会）記者 ■(株)TLO ■(株)Summer Time Studio
■県内外の中学校・高等学校 ■沖縄県立芸術大学

彫刻専攻

■（公財）美術院国宝修理所 ■I.D.Aインターナショナルデザインアカデミー
■（株）クロノス ■（株）マリンフロート ■（株）エムアイシー
■（株）環芸 ■（株）日本通運 ■ムーンホテルズアンドリゾーツ（株）
■一般社団法人みんなのいえ ■沖縄こどもの国 ■名古屋画廊
■山口大学 ■広西芸術学院 ■哈爾濱師範大学
■共立女子大学（非常勤） ■京都芸術大学 ■高等学校教員
■小学校教員 ■沖縄県立芸術大学

芸術学専攻

■九州国立博物館 ■彫刻の森美術館 ■沖縄県立博物館・美術館
■那覇市歴史博物館 ■浦添美術館 ■美ら島財団 ■名護市博物館
■前橋文学館 ■真鶴町立中川政一美術館 ■九州芸文館
■新潟市會津八一記念館 ■名護博物館 ■茅野市民館 ■GODAC
■IBM ■イオン北海道㈱ ■桜坂劇場 ■NECラベックス ■鹿児島書籍
■ＪＢＦデザイン ■平山印刷 ■永昌堂印刷沖縄編集センター
■ネッツトヨタ香川 ■ＮＨＫ沖縄 ■光文堂コミュニケーションズ
■株式会社いえらぶ琉球 ■中学校・高校教員 ■国家・地方公務員

デザイン専攻

＜広告代理店系＞ ■電通テック ■（株）博報堂プロダクツ
■㈱アドスタッフ博報堂 ■㈱たきコーポレーション
■(株)エマエンタープライズ ■（株）宣伝 ■（株）モノクラム
■日本デザインセンター
＜グラフィック系＞ ■㈱エルアンドシーデザイン ■（株）SCOOP
■mini TOMATO ■（株）光文堂コミュニケーションズ ■平山印刷
■㈱あしびかんぱにー ■（株）PAワークス ■日本アニメーション（株）
■沖縄テレビ ■（株）沖縄テレビ開発
＜プロダクト系＞ ■カリモク家具㈱ ■カンディハウス ■中川政七商店
■ヤマハ㈱ ■Unicorn Entertainment Ltd.
■（株）GKデザイングループ ■㈱大川 ■(株)冨士ファニチア
＜建築・スペース系＞ ■(株)国建 ■サイアスホーム㈱
■㈱コンセプション ■(株)アレックス ■ヴィスピン建築設計 上海支店
■そら植物園 ■デザインスタジオ琉球樂団 ■(株)船場
■ナグモデザイン事務所
＜教育＞ ■県内外の中学校・高等学校 ■沖縄県立芸術大学

工芸専攻

■紅型工房 ■織物工房 ■大嶺工房（陶芸工房）■常秀工房（陶芸工房）
■国場陶芸（陶芸工房）■工房　壱（陶芸工房）■育陶園（陶芸工房）
■糸満工芸（陶芸工房）■北窯（陶芸工房）■Aki-art（陶芸工房）
■陶芸作家（自営）■VIVACE（陶芸インストラクター）
■OVER LAND CLUB（陶芸インストラクター）
■体験王国むら咲むら（陶芸インストラクター）
■アーバン（陶芸インストラクター）■飛騨産業(株) ■凸版印刷(株)
■任天堂(株) ■中外国島(株) ■三星染色(株) ■(株)電通沖縄
■（株）日比谷花壇 ■カメラマンアシスタント ■アパレルメーカー
■会社経営（芸能プロダクション） ■ヨーガンレール
■那覇造形美術学院 ■JICA ■(株)INAX ■白山陶器(株)
■琉球朝日放送（美術スタッフ） ■リウボウインダストリー
■洋菓子無花果（パティシィエ）■セルフサポートセンターぴゅあ
■アッシュ・ペー・フランス(株) ■(株)ゆう工房 ■雅織工房
■(株)MCS ■窪田織物（株）■（有）島津漆器彩色工房
■オンデーズ株式会社 ■久留米絣織元下川織物 ■UTエイム（株）
■ライフデザイン ■774　nanashi ■カイハラ（株）■書道教室
■沖縄県工芸振興センター ■南風原文化センター ■小学校教員
■中学校教員 ■高等学校教員 ■有田窯業大学校教員
■常滑市陶芸研究所教員 ■沖縄県立芸術大学
■角萬漆器 ■一般財団法人沖縄美ら島財団 ■首里城復元関連会社

音楽学部／大学院

音楽表現専攻

■ヴァイマール歌劇場専属歌手 ■新国立劇場合唱団員
■鹿児島国際大学講師 ■琉球朝日放送（株）■SDA東西学園
■音楽教室 ■県内の小学校・中学校・高等学校教員
■沖縄県立芸術大学（教員・助手・非常勤講師・職員）
■レックリングハウゼン州立シンフォニーオーケストラ
■マインツ市祝典オーケストラ ■東京交響楽団 ■山形交響楽団
■大阪交響楽団 ■広島交響楽団 ■東京吹奏楽団 ■神奈川県警察音楽隊
■陸上自衛隊第15音楽隊 ■航空自衛隊 ■ヤマハ（株）
■ヤマハ音楽振興会 ■ヤマハ音楽教室 ■カワイ音楽教室
■（株）アーツポート企画 ■三越 ■三井住友銀行 ■熊本銀行
■KAJIMOTO ■日本食研 ■郵便局 ■市役所 ■小川楽器 ■ピアノ講師
■ミュージックプラザ ■十勝毎日新聞 ■（株）ヤマダヤ
■合同会社PVHジャパン ■とさでん交通（株）
■（公財）名古屋市文化振興事業団 ■（株）コジマ ■なすの楽器
■グロースエキスパートナーズ
■（株）ユーズテック■音楽教室（自営）■フリーランス演奏家
■デトモルト音楽大学非常勤講師 ■洗足学園音楽大学非常勤講師
■県立特別支援学校教員 ■県内外の小学校・中学校・高等学校教員
■沖縄県立芸術大学教職員・非常勤講師・嘱託員

音楽文化専攻

.■国立劇場おきなわ ■那覇バス(株) ■(株)花水木コーポレーション
■琉球朝日放送（株） ■琉球放送（株）■伊豆急行(株)
■ザ・ブセナテラス ■モトフリークウィリー ■県内舞台製作会社
■楽譜製作工房 ■浦添市職員（行政職）
■県内外の小学校・中学校・高等学校教員
■沖縄県立芸術大学非常勤講師

琉球芸能専攻

■（公財）国立劇場おきなわ（芸術監督・嘱託員） ■NPO法人団体
■沖縄市民小劇場あしびなー ■沖縄タイムス社
■組踊・琉球舞踊小道具製作工房 ■三線製作・店舗経営
■三線漆塗・店舗経営 ■飲食店経営 ■（一財）沖縄美ら島財団
■（株）沖縄富士通システムエンジニアリング
■ルネッサンスリゾートオキナワ ■（株）Pix
■（株）アカネクリエーション ■那覇空港ビルディング（株）
■（株）沖電工 ■国際日本文化研究センター
■沖縄県南部医療センター･看護師 ■介護士 ■郵便局職員
■吉本興業（株）■柳都振興（株）■音楽活動（自営）
■琉球大学非常勤講師 ■県内役所・役場（職員・臨時）
■沖縄県公立養護学校教師
■県内の小学校･中学校･高等学校（教員･臨時･非常勤講師･事務職員）
■沖縄県庁職員・臨時的任用職員 ■豊見城市社会福祉協議会
■沖縄県立芸術大学教職員・非常勤講師・嘱託員

活躍する卒業生

知念　由芙
（ちねん　ゆう）

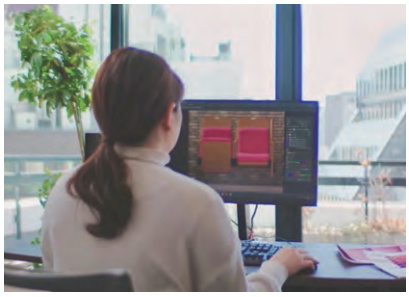
英国王立ノーザン音楽大学大学院２年次、ハレ合唱団団員
2018年　沖縄県立芸術大学音楽学部音楽学科音楽学コース卒業
2020年　沖縄県立芸術大学大学院声楽専修修了
2023年　Royal Northern College of Music, Master of Performance 在学中
2024年　ハレ合唱団　1st Alto

私は現在、イギリスのマンチェスターにある Royal Northern College of Music　の大学院で声楽の勉強をしています。こちらの大学では、プロの演奏家になるための実践的な授業を受けており、外部のオーディションもたくさん紹介してもらえるため、毎日が学びで溢れています。今年の8月は、ドイツのバロック・ヴォーカル・アカデミーの主催するアカデミーに参加し、素晴らしい指揮者、演奏家たちと共演する機会に恵まれました。また、9月からはマンチェスターを拠点としているハレ管弦楽団の合唱団のメンバーとなり、バロックから現代まで様々な合唱作品に挑戦しています。最近は、大学で私が企画したダンスと歌を組み合わせたコンサートも開催することができました。
沖縄県立芸術大学には、2013年から2023年まで1年間の交換留学を含む約10年間在籍していました。芸大の良いところは、先生が学生一人一人に寄り添って丁寧に指導してくれるところです。イギリスで勉強している今でも、芸大で学んだ音楽の基礎が十分に生きていると感じます。

佐久田　立々夏
（さくだ　りりか）

那覇市若狭公民館職員
2023年　音楽文化専攻沖縄文化コース卒業
2024年　沖縄県那覇市若狭公民館就職

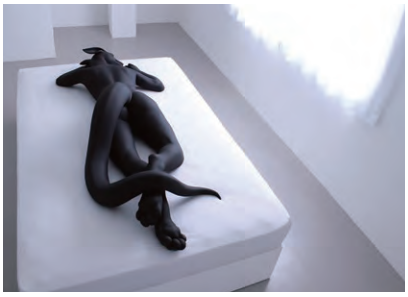
私が現在働いている若狭公民館は、老若男女、国籍を問わず、多世代、多文化の方と関わっています。私は、子どもの居場所事業、その中でも中学生対象の「アート部」を担当していて、一緒に美術館で鑑賞をしたり、地域の文化祭で出店の企画をしたりするほか、日常的には彼らが通う学校や家庭のことを話し合ったりしています。
音楽学部出身なのですが、美術に関わる仕事も多いですね。他にも面白い取り組みがたくさんあるので、詳しくは若狭公民館のHPをご覧ください。
大学で学んだ企画制作のノウハウがとても活かされていて、働きながら、芸術・文化活動と社会をつなぐためのアートマネジメントの役割に近いものの大切さを感じています。
音楽文化専攻は、同じ専攻であっても先生方皆さんの専門分野が違い、色んな角度、切り口から音楽を学べる素敵な場所です。卒業後、改めて恵まれた環境にいたことを実感しています。



其阿彌　佳奈
（ごあみ　かな）

テキスタイルデザイナー
2017年　美術工芸学部　デザイン工芸学科　工芸専攻　織分野　卒業
2019年　大学院造形芸術研究科　生活造形専攻　工芸専修　織研究室　修了
2019年　株式会社コトブキシーティング　入社
2019年　株式会社FABRIKO出向

私は、主に公共施設のイスの製造・販売を行っている会社で、イス張地のテキスタイルデザイナーをしています。公共空間にとって、建築やインテリアは記憶や印象に残る大切なアイテムです。ヒアリングをし、それぞれの施設の固有の伝統や文化をモチーフとして織り込み、オリジナルのデザインを提案することで、施設の存在価値を高め、新たなブランディングへとつなげるお手伝いをしています。
在学時代は、授業や講義で織をはじめとし、様々な工芸・文化に触れ、体感することができました。沖縄は、全国的にも類を見ないほど、多くの文化が育まれ、発展してきた地でもあります。現地で実際に学ぶことは、他ではなかなかできない特別な経験です。限られた学生数で密度の高い講義を受けることができるのも大きな強みです。ぜひ、ここでしか学べない知識・技術を積極的に吸収し、自分自身の成長に繋げていってください。



堀本　達矢
（ほりもと　たつや）

ケモノ美術作家
2018年　沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科環境造形専攻彫刻専修　修了
2020年　何気ない日常が、輝いて見える。2
（企画展/阪急うめだ百貨店 コンコースウィンドー/大阪）
2021年　One FACE展（グループ展/roid works gallery/東京）
2022年　ART OSAKA 2022（アートフェア/大阪市中央公会堂/大阪）
2023年　Meet the KEMONO（個展/銀座 蔦屋書店/東京）

私は関西の芸術大学を卒業し、環境を一新して制作研究に集中したい目的で、沖縄県立芸術大学大学院へ進学しました。温暖な気候は焦る気持ちを抑え、力強い自然からは勇気を貰い、過去の固い思想や雑音が消え、まるで生まれ変わったような気持ちで充実した大学院を過ごしました。
県外から沖縄へ渡る目的は多様でしょう。ただ、芸術を学ぶ場へ向かうのであれば、その目的に沖縄という土地に対する確固とした理由が必要だと考えています。沖縄独自の文化や風習も理由として十分ですが、それら以外の魅力も無限にあり、その無限にある魅力の全てが沖縄を目指す理由として成り立ちます。その理由、目的を教授たちと共有し、練り上げることでより効果的な研究となり、沖縄で過ごしたという経験そのものが、今後の芸術活動において唯一無二の宝物になるでしょう。

学費・奨学金

【入学料・授業料等】

区分	授業料聴講料	入学料	
		県内居住者	その他の者
学部学生	年額 535,800円	282,000円	512,000円
大学院生	年額 535,800円	282,000円	512,000円
研究生	月額 29,700円	84,600円	153,600円

備考／県内居住者とは、次の各号のいずれかに該当する者をいう。
（1）入学の日の１年以前から引き続き県内に住所を有する者。（2）入学の日の１年以前から引き続き県内に住所を有する配偶者または１親等の親族のある者。
※在学中に授業料改定が行われた場合には、改定後の授業料が適用されます。
※高等教育の修学支援新制度の対象者のほか、法人の規定に基づいて入学料、授業料が減免された者は、その額が適用されます。
※大学院に入学する者のうち、社会人等で履修期間を延長する長期履修制度の適用が認められた者は、その期間に応じた授業料が適用されます。

■授業以外に必要な経費

1. 美術工芸学部
実習経費（４年間分）は右表のとおりです。
入学時に一括して納入し、過不足が生じた場合は入学後調整することになります。
※卒展経費含む

専攻	実習経費	学外研究費
絵画専攻	300,000円	180,000円
彫刻専攻	330,000円	180,000円
芸術学専攻	70,000円	160,000円
デザイン専攻	170,000円	180,000円
工芸専攻	320,000円	180,000円

2. 音楽学部
○琉球芸能専攻　琉球古典音楽コース　約 80,000 円（黒朝・ハチマチ・長着稽古着代）
○琉球芸能専攻　琉球舞踊組踊コース　約 15,000 円（長着稽古着代）

3. 学外研究費

美術工芸学部
各専攻とも２年次あるいは３年次に予定している必修科目の経費として、180,000 円（芸術学専攻は 160,000 円）を入学時に納入し、過不足生じた場合は、入学後調整することになります。

音楽学部
琉球芸能専攻では、３・４年次に予定している選択科目の経費として、実施年次に約 180,000 円が必要となります。
音楽文化専攻沖縄文化コースでは、３年次に行われる必修科目の経費として、県外施設で研修する場合は、実施年次に 80,000 円～120,000 円程度が必要となります。

【奨学金】

奨学金は、学業成績優秀な学生であって経済的理由により修学に困難がある者に対し、学資として貸与等がなされるものです。
奨学金には、（独）日本学生支援機構奨学金、（公財）沖縄県立芸術大学芸術振興財団奨学金、（公財）沖縄県国際交流・人材育成財団奨学金、地方公共団体等の奨学金、その他民間団体による奨学金等があります。

（独）日本学生支援機構奨学金（貸与）

多くの学生が利用している奨学金です。
本学では日本学生支援機構奨学金希望者向け説明会を４月に開催しています。

【学部】

奨学金の種類	貸与の方法	貸与金額	
		自宅通学	自宅外通学
第一種奨学金（無利子）	月額	45,000円 30,000円 20,000円	51,000円 40,000円 30,000円 20,000円
第二種奨学金（有利子）	月額	20,000円～120,000円（１万円単位）から選択	
入学時特別増額貸与奨学金	一時金	100,000円～500,000円（10万円単位）から選択	

【大学院】

奨学金の種類		貸与の方法	貸与金額	
			修士課程	博士課程
第一種奨学金	第一種奨学金（無利子）	月額	50,000円 88,000円	80,000円 122,000円
	授業料後払い制度（無利子）	学校へ振込	最大 535,800円	―
	授業料支援金 生活費奨学金	月額	0円　20,000円 40,000円から選択	
第二種奨学金（無利子）		月額	50,000円　80,000円　100,000円 130,000円　150,000円	
入学時特別増額貸与奨学金		一時金	100,000円～500,000円（10万円単位）から選択	

（独）日本学生支援機構奨学金（給付）

高等教育無償化制度の対象者に対し、奨学金を給付します。【学部生のみ】

（公財）沖縄県立芸術大学芸術振興財団奨学金（給付）

沖縄県立芸術大学に在学する学生（姉妹校派遣及び受入留学生を含む）で、人物、学業ともに優れ、学資の支弁が困難と認められる者（他から奨学金の貸与又は給付を受ける者を除く。但し留学生はこの限りではない。）
給付額：自宅通学者　　月額 25,000 円
　　自宅外通学者　月額 30,000 円

（公財）沖縄県国際交流・人材育成財団奨学金（貸与）

沖縄県に本籍または住所を有する者の子弟で、人物、学業ともに優れ、かつ健康であり学資の支弁が困難と認められる者。他から奨学金の貸与を受けていない者。
貸与額：学部生　　月額　45,000 円（自宅通学）
　　月額　50,000 円（自宅外通学）
　　修士課程　月額　70,000 円
　　博士課程　月額 100,000 円

その他、地方公共団体、民間団体による奨学金

各市町村育英会等からの募集については、直接希望者が出願するのがほとんどです。また、それぞれ応募期間、申込先、応募資格等が異なります。
各民間団体からの募集については、その都度、応募期間等について掲示板にてお知らせ致します。

学生生活サポート

■保健室

当蔵キャンパス

崎山キャンパス

保健室では、心身ともに健康で充実した大学生活が送れるようサポートしています。
毎年５月に定期健康診断を実施しています。ケガや病気の対応、健康上の不安やこころの悩みなどの相談窓口にもなっています。また、体調の維持・管理のための食事（栄養）相談や、身長、体重、血圧などの測定ができます。
もし、気分が悪いときはベッドで休養もできますので、気軽にご利用ください。

■学生相談室

大学生という新しい環境に馴染むには不安と緊張が伴います。学生相談室では、大学生活を送る上で抱える様々な悩みについて、学生支援コーディネーターや専門のカウンセラーが話をうかがいます。
こころの悩みや、学業、人間関係、不安やストレスによる心身の症状、障がいによる困り感などがあれば、一人で抱え込まずに気軽にご相談ください。

■ハラスメント相談

大学生活における人間関係のコミュニケーションや信頼関係をより良いものとするため、ハラスメントに関する学外相談窓口を設置しています。随時相談を受け付けており、必要に応じて面談を行っています。

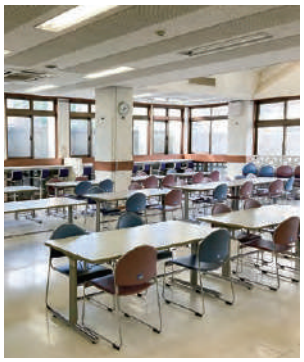
■合理的配慮について

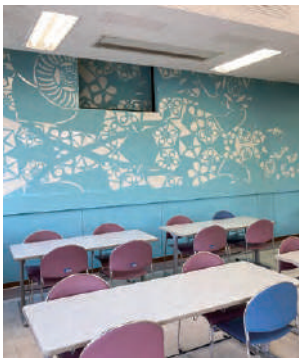
合理的配慮とは、障がいなどを抱える学生が直面する学修上の困り事に対し、個別に対応・調整を行うものです。
このことは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（いわゆる障害者差別解消法）において定められています。ここでの障がいとは、障害者手帳の有無に限らず、身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がいや高次脳機能障がい、その他の心や身体の働きに障がい（難病に起因する障がいも含まれます）がある人で、その障がいや社会的障壁によって制限を受けている人全てが対象となります。
本学では、障がいなどを抱える学生から何らかの対応を必要としているとの意志が伝えられたとき（申請があったとき）、負担が重すぎない範囲で個別に対応します。このことを合理的配慮と呼んでいます。

■公聴について

学長のメールアドレスを公開しているほか、学内（当蔵、金城、崎山キャンパス）の事務局窓口前にご意見箱を設置し、随時意見を受け付けております。（匿名可）
意見への対応については、学内で審議し、結果を掲示により公表しております。
また、毎週火曜日に学長オフィスアワーを設け、学長と学生の交流による学内の環境改善を図っております。

■学生食堂





当蔵キャンパス福利厚生棟地下にある学生食堂は、日替わり定食、沖縄そばといった定番メニューを手頃な価格で提供しています。授業や研究に忙しい学生たちの食生活を支えているほか、一般の方にも開放されており、誰でも気軽に利用できる食堂となっています。

■キャンパス間シャトルバス

首里当蔵キャンパスと首里崎山キャンパスをバスで結ぶことにより、学生のキャンパス間移動の負担を軽減しています。運行本数は1日2便です。

■学内無線LAN（Wi-Fi）

学習環境の充実を図るため、当蔵キャンパス及び崎山キャンパスの教室、エントランスホールに学内無線LAN（Wi-Fi）を整備しています。

沖芸祭

本学では、毎年11月に在学生が中心となって「沖芸祭」を開催しています。沖芸祭は、本学の『建学の理念』にある「沖縄文化が作り上げてきた個性の美と人類普遍の美を追究すること」の研究発表・自主的活動促進の場です。毎回テーマを設定し、学生同士、また地域の方々との交流の場として、大きな役割を担っています。

写真：沖芸祭

オープンキャンパス

Open Campus
オープン
キャンパス
2025

芸術系大学および大学院へ進学を希望する方々を対象に、本学の教育活動や学習環境の一端を知っていただけるようオープンキャンパスを開催しています。各専攻・専修に分かれ学部・大学院についてご紹介し、個別相談会などを企画しております。
2025年度は右記のとおり予定しています。皆様のご参加をお待ちしております。
美術工芸学部のサマースクールは8/1～8/7までの間、開催します。

6/8 日 美術工芸学部・音楽学部
7/27 日 音楽学部
8/3 日 美術工芸学部
12/7 日 音楽学部
2026 3/22 日 美術工芸学部

イベント情報

入試案内

入試案内Webサイト

1　一般選抜【全学部全専攻、大学院実施】

実技試験と学力試験及び調査書（大学院は調査書は無し）等により総合的に判断し、選抜を行っております。

2　学校推薦型選抜【彫刻専攻を除く全学部全専攻実施】

出身学校長の推薦書等の出願書類及び志望学科専攻による選抜試験の成績結果等を総合的に判断し、選抜を行っております。

3　総合型選抜【美術工芸学部美術学科彫刻専攻、芸術学専攻、デザイン工芸学科工芸専攻／音楽学部全専攻実施】

入学志願者本人の記載する資料等の出願書類及び志望学科専攻による選抜試験の成績結果等を総合的に判断し、選抜を行っております。

4　社会人選抜【音楽学部音楽学科琉球芸能専攻／大学院比較芸術学専攻のみ実施】

大学入学共通テストを免除し、志願理由書等の内容、小論文、実技及び面接等により総合的に判断します。

※詳しくは、Webサイト等でご確認ください。

2026年度　入試日程

■大学入学者選抜

選抜方法		学部（専攻）	出願期間	選抜期日
一般選抜（学部）	前期日程	美術工芸、音楽	R8.1.26（月）～２.４（水）	R8.2.25（水）～ 2.27（金）
	後期日程	美術工芸（絵画）	R8.1.26（月）～２.４（水）	R8.3.12（木）～ 3.14（土）
学校推薦型選抜（学部）		美術工芸（絵画・芸術学・デザイン・工芸）	R7. 11.4（火）～11.11（火）	R7. 11.22（土）～11.23（日）
		音楽	R7. 11.4（火）～11.11（火）	R7. 11.22（土）～11.23（日）
総合型選抜（学部）		美術工芸（彫刻・芸術学・工芸）	R７.９.１（月）～９.８（月）	R7.9.27（土）～ 9.28（日）
		音楽	R７.９.１（月）～９.８（月）	R7.9.27（土）～ 9.28（日）
私費外国人留学生選抜（学部）	前期日程	美術工芸、音楽	R8.1.26（月）～２.４（水）	R8.2.25（水）～ 2.27（金）
	後期日程	美術工芸（絵画）	R8.1.26（月）～２.４（水）	R8.3.12（木）～ 3.14（土）
社会人選抜（学部）		音楽（琉球芸能）	R8.1.26（月）～２.４（水）	R8.2.25（水）～ 2.27（金）

■大学院入学者選抜

研究科		専攻	出願期間	選抜期日
造形芸術研究科（大学院・修士）	９月試験	比較芸術学（一次募集）	R7.7.28（月）～８.４（月）	R７.９.６（土）～ ９.７（日）
	２月試験	生活造形、環境造形、比較芸術学（二次募集）	R7.12.8（月）～12.15（月）	R8.1.31（土）～ ２.１（日）
音楽芸術研究科（大学院・修士）	10月試験	舞台芸術、演奏芸術、音楽学	R7.9.19（金）～ 9.29（月）	R7.10.25（土）～10.26（日）
	２月試験	舞台芸術、演奏芸術、音楽学	R7.12.8（月）～12.15（月）	R8.1.31（土）～ ２.１（日）
芸術文化学研究科（大学院・博士）		芸術文化学	R8. 1.19（月）～ 1.23（金）	R８.３.３（火）～ ３.５（木）

大学案内（冊子印刷物）の請求・受け取り方法

1. テレメールで請求する場合

有料により請求が可能です。
資料請求番号：568302
料金等：215 円

インターネット：テレメール web アドレスを用いて請求してください。
○テレメール web アドレス／ http://telemail.jp/

※発送開始時期と送料については、変動することがあります。

資料名	発送開始時期	資料請求先
大学案内	４月下旬	インターネット

2. 本学で直接受け取る場合

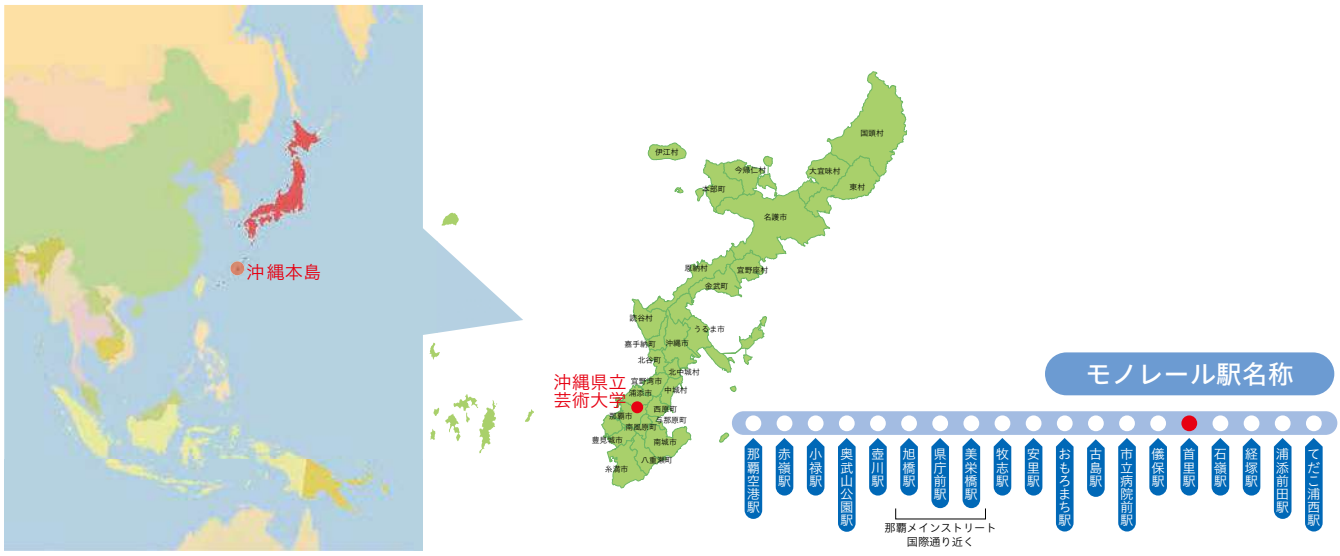
下記の場所で配布いたします。
事前に電話予約の上でご来校ください。

請求・受け取り先
〒903-8602
沖縄県那覇市首里当蔵町 1-4
沖縄県立芸術大学事務局教務学生課
TEL. 098-882-5080

郵送希望の場合
封筒の表に「大学案内請求」と朱書きし、
上記の住所に郵送してください。
返信用封筒（角型２号・33cm×24cm）を同封してください。
返信用封筒には、あて先（請求者の郵便番号、住所、氏名）を明記し、送料相当額（510円）の切手を貼ってください。

アクセスマップ

沖縄県立芸術大学の位置　Location of the Okinawa Prefectural University of Arts



沖縄県立芸術大学周辺略図

【交通案内】首里当蔵キャンパス

■自動車利用の場合
那覇空港（那覇）より9.8km、約45分
沖縄自動車道・那覇ICから、約10分

■モノレール利用の場合
那覇空港駅より首里駅まで約35分、首里駅より徒歩約10分

■バス利用の場合　「当蔵（とうのくら）」バス停下車、徒歩1分
系統番号　[1]首里牧志線　[7][8]首里城下町線
[14]牧志開南循環線　[17]石嶺（開南）線
[346] 那覇西原線（鳥堀経由）

【交通案内】首里金城キャンパス

■自動車利用の場合
那覇空港（那覇）より9.8km、約45分
沖縄自動車道・那覇ICから、約10分

■モノレール利用の場合
那覇空港駅より首里駅まで約35分、
首里駅からタクシー利用で約8分

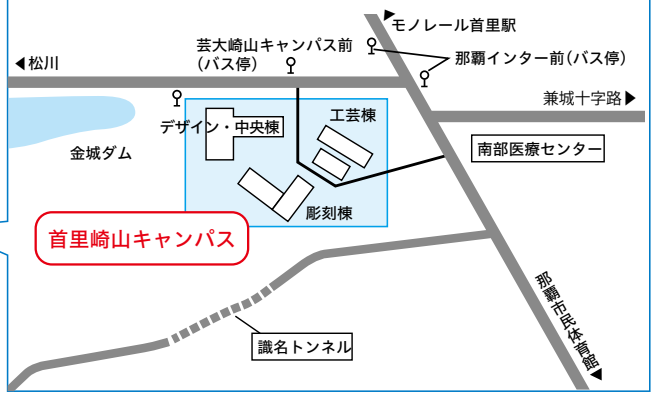
■バス利用の場合
「芸大第３キャンパス前」
バス停下車、徒歩1分
系統番号　[7][8]首里城下町線

【交通案内】首里崎山キャンパス

■自動車利用の場合
那覇空港（那覇）より9.8km、約45分
沖縄自動車道・那覇ICから、約3分

■モノレール利用の場合
那覇空港駅より首里駅まで約35分、首里駅からタクシー利用で約6分

■バス利用の場合
○「芸大崎山キャンパス前」バス停下車、徒歩1分
系統番号　[15]寒川線
○「那覇インター前」バス停下車、徒歩5分
系統番号　[1]首里牧志線　[14]牧志開南循環線　[15]寒川線　[16]新川石嶺線
[18]首里駅線（一周線）　[19]首里駅循環線　[111] [117]高速バス
[113]具志川空港線　[123]石川空港線
[127]屋慶名高速線　[152]ライカム高速線
[191] [391]城間線（一日橋経由）



公立大学法人
沖縄県立芸術大学
OKINAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF ARTS
〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町１丁目４番地
TEL 098-882-5000（代表） FAX 098-882-5033